CO·OP共済



地域ささえあい助成

- 生協と他団体が協同する活動を応援します -

2015年度活動報告集



日本コープ共済生活協同組合連合会



日本コープ共済生活協同組合連合会(以下、コープ共済連)では、2012年度社会貢献活動として「CO・OP共済地域ささえあい助成」を開始し、2015年度に4年目を迎えました。

生協は、くらしを向上させることを目的に事業を進めていますが、昨今の少子高齢化、貧困などくらしに関する困難さは、地域社会全体に目を向け、他団体・行政とも一緒になって必要な取り組みを行っていかなければ、解決できない状況になってきています。そのため、本助成では、生協と他団体がネットワークを形成しながら問題を解決していく活動を支援することにしており、次の3つのテーマにそった、生協と他団体が協同で行う取り組みを助成の対象としております。

- ①くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する
- ②命を守り、その人らしい生き方ができるようにする
- ③女性と子どもが生き生きする

2015年度は82件のご応募をいただき、審査委員会において34件、1,846万336円の助成を決定しました。なお選定にあたっては、次の選考基準を設け審査を進めました。

選考基準

- ①生協と地域の他団体との協同により成り立つ活動であること、②計画の実現性、③予算計画の妥当性、
- ④対象者のニーズに基づく活動であること、⑤多様な地域住民の関わりや参加度、⑥活動の新規性や先駆性
- ※過去に助成を受けたことのある団体では、取り組みの発展性にも着目しました。
- ※協同の取り組みができているかという点では、他団体と協同することで新たな広がりが期待できるか、または、 生協がしっかり役割を発揮できているかを着眼点としました。

◆活動4年目を迎えて

本助成は2015年度で4年目を迎えました。新規、継続申請とも協同の輪の広がりを感じさせる実践申請でしたが、なかには、従前の内向きの行事的活動も見られました。上記した審査基準を参考にしてください。

2012年度より継続して助成を受けている「生活協同組合あいコープみやぎ」は、東日本大震災を機に立ち上げ、地域サロン「よってがいん」にて居場所づくりなどの活動をしています。2015年度は、新たな地域包括ケアシステムー新しい総合事業を見据えた居場所づくりを参加者とともに考えることを目的に、「お茶っこまつり」を開催しました。住環境が急激に変化する地域の中で、コミュニティの再構築と生活困窮者支援にも目を向けた議論を地域住民の皆さんと開始するなど、より活動が発展してきています。更なる活動の広がりを期待します。

今日、求められる地域共生社会づくりの活動は、生協とともに一緒に活動する団体との連帯が必要です。本助成は、そのきっかけづくりになればと願って応援するものです。今後、さらなる活動の促進を目指して地域でのネットワーク形成の促進や助成応募を活発にするためには、助成の条件の一つである 「協同の取り組み」について事例を紹介し、モデルを明らかにする取り組みが効果的です。これから、助成団体の事例報告会などを開催し、情報共有や交流の場を設けていきたいと考えています。今後も、生協と地域の団体が一緒になって取り組み、地域に根差した活動がさらに促進することを期待しています。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

2015年度 CO·OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会 委員長 上野谷 加代子 (同志社大学 社会学部 教授)

2015年度 活動報告



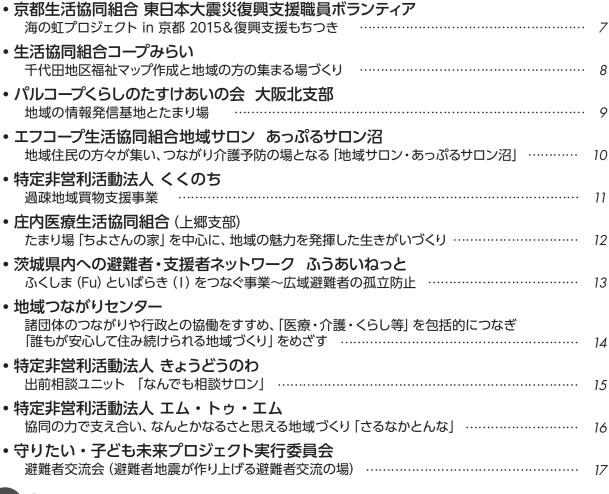


はじめに 2015年度 CO·OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会 委員長 上野谷 加代子(同志社大学 社会学部 教授) 活動報告集



くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する





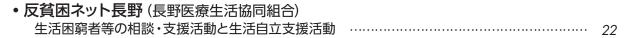


命を守り、その人らしい生き方ができるようにする。

コスモス会 (不登校・ひきこもりの子どもを持つ親の会)



	困難を抱えるひきこもりの若者の就労支援	19
•	みなと医療生活協同組合みずほ支部 ふれあいサロン 「お茶っこサロンS」 瑞穂区いきいきサロン活動の運営	20
•	2015福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川実行委員会 (神奈川県生活協同組合連合会2015福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川	





• 特定非営利活動法人 ソーシャルビジネス推進センター 過疎市町村における介護予防事業 (健康運動指導・認知症予防) を協働で立ち上げる	23
• いわて生活協同組合 お茶端会議の開催	24
• 生活協同組合あいコープみやぎ お茶っこケア 地域サロン 「よってがいん」	25
• 水橋福祉事業所連絡会 いつまでも安心して、元気で暮らし続けられるまちづくりを地域ぐるみで取り組む	26
• 特定非営利活動法人 応援のしっぽ 手しごとコミュニティの運営支援としての手作り商品販売路拡大及び事務軽減活動	27
• 生活協同組合おおさかパルコープ (くらしネット福祉) 手引き・手話を学んで障がい者とともに、支え合う地域づくり	28
女性と子どもが生き生きする 🎎	
• 生活協同組合コープおおいた ふくしまっ子応援プロジェクト5	29
• 特定非営利活動法人 とちぎボランティアネットワーク 学齢期にある低所得母子家庭等への、フードバンクを利用した米の定期支援による 家計支援・生活相談支援	30
• 生活協同組合コープあおもり 福島の子ども保養プロジェクト コープあおもり ねぶたツアー	31
• 東京西部保健生活協同組合 おばあちゃん家の放課後	32
• 特定非営利活動法人 ポトスの部屋 子ども・若者の居場所の提供と生活困難家庭の中学生らの学習支援並びに相談活動	33
福井県民生活協同組合 ハーツきっず児童クラブ 地域の子育て団体や児童館との協働による企画を開催する	34
• 特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ ママの笑顔が社会を変える-楽しい子育てとママの社会参加をすすめるプロジェクト-	35
広島中央保健生活協同組合 子育て広場「コープのびのびクラブ」に関する備品購入及び施設拡充、 ならびに子育て支援に関する企画の実施	36
特定非営利活動法人 パパちから応援隊①新米パパ&ママのための「あかちゃんとあそぼう」本セミナー 全3回②家族っていいね!フェスタ ~笑顔の花を咲かせよう~	<i>37</i>
• 特定非営利活動法人 キッズドア コープみらいプラザを活用した低所得の子どもたち向けの通年型無料学習会の実施	38
• 一般社団法人 ワーカーズ・コレクティブぶろぼの工房 親子ひろばとお茶っこクラブ及びエンパワメント講座の開催	39
• 特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン 関西 (FJK) 家族みんなが大喜び! 頼りになるパパ育てプログラム!	40
• 特定非営利活動法人 とうほく食育実践協会 畑から食卓へ大豆を運ぶ会 〜輝く女性と次世代を担う子供たちのストーリー〜	41
◆ 2015年度 募集要項	42

2015年度 CO·OP共済 地域ささえあい助成 助成先一覧



くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

■京都生活協同組合

東日本大震災復興支援職員ボランティア

《協同団体》

- ●古屋でがんばろう会
- ●綾部市志賀郷地区住民有志
- ●綾部市立何北中学校、同PTA
- ●いこいの村聴覚言語障害センター
- ●鳥取県畜産農業協同組合

■生活協同組合コープみらい

《協同団体》

●佐倉市千代田地区社会福祉協議会

■パルコープくらしのたすけあいの会 大阪北支部

《協同団体》

- ●大淀東地域社会福祉協議会
- ●大淀東地域活動協議会

■エフコープ生活協同組合地域サロン あっぷるサロン沼

《協同団体》

- ●沼校区社会福祉協議会
- ●特定非営利活動法人 明日はもっと綺麗隊
- ●健康友の会新小倉支部

■特定非営利活動法人 くくのち

《協同団体》

●生活協同組合コープいしかわ

■庄内医療生活協同組合(上郷支部)

《協同団体》

- ●鶴岡市上郷地区自治振興会
- ●鶴岡市大谷自治会
- ●上郷地区熊野長峰MG研究会
- ◉生活協同組合共立社
- ●なんば助産院

■茨城県内への避難者・支援者ネットワーク ふうあいねっと

《協同団体》

- ●いばらきコープ生活協同組合
- ●福島県復興支援員
- ◉浪江町復興支援員

■地域つながりセンター

《協同団体》

- ●JAしまね(本店・くにびき地区本部)
- ●松江保健生活協同組合
- ●生活協同組合しまね
- ●島根県社会福祉協議会
- ◉松江市社会福祉協議会
- ●松江地区社会福祉協議会会長会
- ●おたがいさままつえ
- ◉おたがいさまいずも
- ●おたがいさま雲南

■特定非営利活動法人 きょうどうのわ

《協同団体》

- ●生活協同組合コープこうべ 第3地区活動本部
- ●神戸市東灘区社会福祉協議会

■特定非営利活動法人 エム・トゥ・エム

《協同団体》

- ●生活協同組合コープあいち
- ●南医療生活協同組合
- ●特定非営利活動法人 地域福祉を考える会まごころ
- ●特定非営利活動法人 よつ葉

■守りたい・子ども未来プロジェクト 実行委員会

《協同団体》

- ●神奈川県生活協同組合連合会
- ●神奈川県ユニセフ協会
- ●公益財団法人 横浜YMCA

(11団体) 6,772,796円





2

命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

■コスモス会

(不登校・ひきこもりの子どもを持つ親の会)

《協同団体》

●コープみやざき生活協同組合

■みなと医療生活協同組合みずほ支部 ふれあいサロン「お茶っこサロンSI

《協同団体》

- ●名古屋市瑞穂区社会福祉協議会
- ●協立総合病院
- ●瑞穂保健所
- ●瑞穂消防署

■2015福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川実行委員会

(神奈川県生活協同組合連合会)

《協同団体》

●神奈川県ユニセフ協会

■ 反貧困ネット長野 (長野医療生活協同組合)

《協同団体》

- ●マイサポ長野・ボランティアセンター
- ●シングルマザー支援協会長野県支部
- ●特定非営利活動法人 なかじょう

■特定非営利活動法人 ソーシャルビジネス推進センター

《協同団体》

- ●生活協同組合コープさっぽろ
- ◉北翔大学

■いわて生活協同組合

《協同団体》

- ●陸前高田市社会福祉協議会
- ◉読書ボランティアおはなしころりん

■生活協同組合あいコープみやぎ

《協同団体》

- ●特定非営利活動法人 お茶っこケア
- ●特定非営利活動法人 井戸端介護
- ●特定非営利活動法人 わらいの館四季
- ●めぐるJapan
- ●特定非営利活動法人和(なごみ)認可外保育施設ちるぴよ
- ●国見
- ●千代田のより処 ひなたぼっこ
- ●石巻クリスチャンセンターンセンター

■水橋福祉事業所連絡会

《協同団体》

- ●富山医療生活協同組合
- ●富山県生活協同組合連合会

■特定非営利活動法人 応援のしっぽ

《協同団体》

- ●みやぎ生活協同組合
- ●みやぎ連携復興センター
- OJCN

■生活協同組合おおさかパルコープ

(くらしネット福祉)

《協同団体》

- ●社会福祉法人 大阪市都島区社会福祉協議会
- ●「特定非営利活動法人 あるる」 「自立生活センターあるる」 「都島区障がい者相談支援センターあるる」



(10団体) 5,349,240円



女性と子どもが生き生きする

■生活協同組合コープおおいた

《協同団体》

- ●大分県社会福祉協議会
- ●エフコープ生活協同組合

■特定非営利活動法人 とちぎボランティアネットワーク

《協同団体》

●とちぎコープ生活協同組合

■生活協同組合コープあおもり

《協同団体》

- ●青森保健生活協同組合
- ●青森中央学院大学
 ●青森中央短期大学

東京西部保健生活協同組合

《協同団体》

◉杉並区社会福祉協議会

■特定非営利活動法人 ポトスの部屋

《協同団体》

- ●みなと医療生活協同組合
- ●あいち定時制・通信制父母の会
- ●ポンペ ミンタル

■福井県民生活協同組合 ハーツきっず児童クラブ

《協同団体》

- ●特定非営利活動法人 生涯体育学習振興機構
- ●なんでも劇団 はやおきぱんやさん

■特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

《協同団体》

- ●生活クラブ虹の街
- ●特定非営利活動法人 おやこカフェ
- ◉人形劇サークルドロップス

■広島中央保健生活協同組合

《協同団体》

- ◉広島市西区母親連絡会
- ●新婦人広島市西支部 ●ふくしま文庫

■特定非営利活動法人 パパちから応援隊

《協同団体》

- ●市民生活協同組合ならコープ
- ●奈良県と生駒市 ●企業 個人など 8団体

■特定非営利活動法人 キッズドア

《協同団体》

- ●生活協同組合コープみらい
- ●中野よもぎ塾

■一般社団法人 ワーカーズ・ コレクティブぷろぼの工房

《協同団体》

- ●多摩南生活クラブ生活協同組合 まち府中
- ●企業組合ワーカーズ・コレクティブ椀もあ
- ●特定非営利活動法人 ACT府中たすけあい ワーカーズぽぽ
- ●特定非営利活動法人 エコメッセ府中
- ●特定非営利活動法人 ArrowArrow

■特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン 関西 (FJK)

《協同団体》

- ●大阪いずみ市民生活協同組合
- ●和泉市総務部人権・男女参画室
- ●堺市子ども青少年育成部子ども企画課
- ●社会福祉法人 どんぐり会
- ●羽曳野市人権推進課
- ●羽曳野市社会福祉協議会

■特定非営利活動法人 とうほく食育実践協会

《協同団体》

- ◉生活協同組合あいコープみやぎ
- ●有限会社大郷グリーンファーマーズ

(13団体) 6,338,300円

※一部、申請金額より減額により助成とする。

総合計(34団体/応募:82団体):18,460,336円



くらしを守り、 くらしの困りごとの 解決に資する



京都生活協同組合 東日本大震災復興支援職員ボランティア



活 動 名

海の虹プロジェクト in 京都 2015&復興支援もちつき

協同した団体

- ●古屋でがんばろう会
 ●綾部市志賀郷地区住民有志
 ●綾部市立何北中学校、同PTA
- ●いこいの村聴覚言語障害センター●鳥取県畜産農業協同組合

活動内容概要

被災地のこれからの復興の担い手となっていく子どもたちを応援する目的で、今年も南三陸町の中学生36人、高校生5人、計41人を京都に招き『第4回海の虹プロジェクト』を開催しました。

参加した中高生たちは、舞鶴市、綾部市、京都市を舞台に、受け入れ地域の方々、京都生協の組合員、職員、京都生協外の様々なボランテ





ィア組織の皆様など、延べ200名を超えるスタッフとともに、猛暑の中、古屋の限界集落でがんばっているお年寄りを手伝っての鹿除けネット張り、聴覚障害の方々との交流、子どもたちも準備しての地域の皆さんとのバーベキュー、ホストファミリーのお宅での宿泊などを通して自身の成長を感じ、感謝の気持ちを強く持ちました。子どもたちは、この4年間の『海の虹プロジェクト』を通じて、自立、挑戦、助け合い、人々のつながりを大切にしていくこと、等々について、様々な体験を通じて考え、さらには「自分たちも誰かを応援することができるんだ」ということに気付くことができました。また、卒業して高校生となった子どもたちの中には、「南三陸の復興のために、自分が先頭に立って頑張る」という決意も芽生えはじめています。

他団体と協同することで発見したこと

京都生協職員ボランティアだけではつながることができなかった広範な団体・個人の参画になりました。参加人数だけでなく、団体・個人それぞれの役割を自発的に果たすことで、想定以上に充実した企画内容になるとともに、生き生きと活動するボランティアや地元の人たちの姿そのものが参加した中学生たちに復興のためにがんばる力を与えたように思います。

成果と教訓

- ■成果 ①参加した中学生41人、京都生協ボランティアスタッフ延べ120人、協力いただいた団体、地域のボランティアスタッフ延べ100人でした。②『海の虹プロジェクト』は、宮城県南三陸町の中学生たちに、自立すること、挑戦すること、助け合うこと、人々のつながりを大切にしていくこと、等について、様々な体験を通じて考えるきっかけをつくることという目的を、昨年同様充分に達成できたと考えています。③今回も『海の虹プロジェクト』のメインステージとしてあえて京都の山深い中山間地の2つの農村(志賀郷と古屋)を設定し活動をしていますが、中学生を迎え入れる地域の方々にとっても大きな励みとなっています。
- **教訓** プロジェクトの呼びかけ対象を南三陸町の中学生とこれまでに参加したOBとしてきたことで、複数回、なかには全て参加している子どももいます。複数回の参加で、京都で出会った人たちへの愛着や親近感が南三陸町の子どもたちに生まれつつあります。綾部市古屋地区や志賀郷地区の方々も、3年続けて受け入れることで子供たちの成長を感じ、両者の間に強い絆が生まれています。これから復興を担う子どもたちが自分たちを見守り、応援し続けてくれている人たちが京都に大勢いること、自分たちががんばる姿が応援している人たちを励ますことにもなるということを実感できるこのプロジェクトを続けていくことが、まだまだ道半ばの東北の復興支援の一助になると確信しています。

将来イメージ

今年で4回目となる『海虹』には、毎回多くのリピーターが参加し、卒業した高校生たちも参加してくれています。この取り組みを継続して実施することで、一人一人の成長の様子を長い期間を通じて見続けていくことができます。今年の参加者のほとんどが「来年も絶対参加したい」と言ってくれており、これからも息の長い取り組みを続けていかなければと決意しています。

生活協同組合コープみらい



活 動 名 千代田地区福祉マップ作成と地域の方の集まる場づくり

協同した団体

●佐倉市千代田地区社会福祉協議会

活動内容概要

- ●2015年2月~毎月1回マップ会議を開催しました。
- ●2016年1月「福祉マップ千代田」改訂版を発行しました(編集会議、情報収集、校正、配布、アンケートの実施、回収、分析)。
- ●2016年2月20日「住む人にやさしいまちづくり講演・懇談会」を共催し、講師は佐久間水月弁護士、手をつなぐ育成会会員、とんぼ舎さくら施設長、千代田地区社協マップ作成委員長にお願いしました。地域住民、マップに掲載した施設関係者、障がい者団体、福祉委員(自治会・町内会・区長、学校長、施設長、民生委員、福祉協力者)、他地区の福祉関係者等48名に参加いただきました。
- ●2016年3月10日 認知症サポーター講座 共催(29名参加)





他団体と協同することで発見したこと

コープみらいでは、千葉エリア2区ブロックの中で、佐倉市千代田地区は組合員活動の面であまり活動ができていない地域だったので、千代田地区社協と協同することにより、様々な活動に関わることができるようになりました。千代田地区社協は地域住民による団体で協同することで、色々な角度からアイデアが出され、今まで気付かなかった事に気付かされる場面が多々ありました。また、お互いの経験からの活発な意見があり、その解決策についても意見をいただき、風通しのよい活動ができました。会議で課題が見つかった場合には、次の会議で打開策を提案していただけたのも助かりました。

成果と教訓

- 成果 視野を広げることができました。
- **教訓** 千代田地区社協の編集会議は昨年度から進めていましたが、コープみらいは4回目の会議からの参加だったことで、団体の活動内容や役割、福祉マップ発行の目的や意義を伝えないまま会議を進めてしまい、コープみらいの職員・ブロック委員は意見を出しにくい状態だったと思います。

気持ちの面でしっくり行かないままの参加で、途中何度も時間をとって話をする必要がありました。教訓として、主となる活動に取り組む前に、それぞれの組織や立場、どのような意図でこの活動に参加することになったのか、どの程度まで作業等を依頼できるのかなどを確認し、コミュニケーションを図っておくと、その後の活動がスムーズに行えると思いました。初回の会議は編集会議ではなく、交流会のようなかたちで自己紹介に重点をおいて行うとよかったと思いました。

途中で、そのことに気付き進行を改めてからは、関係も深まり活発なご意見等をいただけ、積極的に参加していただけました。

将来イメージ

千代田地区社会福祉協議会の活動拠点である老人憩の家「千代田荘」を利用して、コープみらいと共催で研修会・懇談会等を行います。

事業等を行う際には、お互いに事前に連絡を取り共催が可能かどうかを話し合います。

パルコープくらしのたすけあいの会 大阪北支部



活 動 名 地域の情報発信基地とたまり場

協同した団体

●大淀東地域社会福祉協議会●大淀東地域活動協議会

活動内容概要

- ●卓球や将棋を楽しむ場・子どもや幼児の遊び場を提供しました。
- ●10月24日(土)に乳幼児を中心に、「ほっとひと息しませんか」のイベントを開催しました。
- ●パルコープ子育てサポートが協力し、3月27日(日)にベビーから大人まで参加できる「春休み子ども祭り」を開催しました。
- ●毎週開催されている認知症予防脳活性化教室にて、消費者被害にあわないようにと事例等をあげながら話をしました。







他団体と協同することで発見したこと

- ●幅広い地域の人たちとコミュニケーションができました。
- ●昨年350世帯のマンションが会館の近くにできました。新米ママさんたちが子育ての不安をかかえ、友だちや集える場を必要としていることがわかりました。
- ●互いの持つ強味を生かし、また、不足している弱い所をおぎないあう事で、広く広報でき、参加者を増やすことができました。

成果と教訓

- 成果 ◎今年度の地域ささえあい助成の活動を機に、2016年4月から月に1度、子育て広場「ゆずっ子」を中三会館で開くことになりました。
 - ◎今も継続している脳活性化教室は、地域に根ざし、継続しています。
- ■教訓■ ◎日々の地道な地域での活動が大切だと感じました。
 - ◎脳活性化教室は、地域に根ざし、高齢者の皆さんからも感謝され、信頼をよせられています。

将来イメージ

• より幅広い地域の人たちとコミュニケーションがとれるかたちを目指します。

エフコープ生活協同組合地域サロン あっぷるサロン沼。



地域住民の方々が集い、つながり介護予防の場となる「地域サロン・あっぷるサロン沼」

協同した団体

- ◉沼校区社会福祉協議会 ◉特定非営利活動法人 明日はもっと綺麗隊
- 健康友の会新小倉支部

活動内容概要

一人暮らし、二人暮らしの高齢者が多い地域で、一人ひとりの拠り 所、みんなで支え合う拠点として、店舗売り場の3分の1のスペースに 地域サロンを開設しました。月水金の10時~16時にボランティアが 駐在し来場者とお話しし、人と人がつながる福祉的な居場所づくり を目指しています。校・区社協やNPOなどの他団体、地域住民の参





加参画を頂きながら、趣味の学び、作品展示の機会など生きがいにつながる取り組みを多数行 い、ここができて良かった、ここに来るようになって毎日が輝きだした!と多くの方に喜んでい ただいています。



他団体と協同することで発見したこと

地域活動に長年取り組まれている校区社協とつながることで、地域の人財や細かな状況を知ることが出来、地域のニーズ にあった活動をすることが出来ました。また、区・市社協との連携で、全国で取り組まれている高齢化対策の一つとしてのサ ロン活動を自覚し、私たちの目標、目的を明確に出来たと思います。地域の方々にとって信頼のある社協や町内会との連携は 活動への安心や信頼につながり、地域づくりに一体感を持てたと感じています。また地域のニーズに応えて、医療団体による 健康チェックや、専門家によるハンドセラピーといった私たちにはできない取り組みを常時実施していることは場の可能性を 大きく広げたと思います。

成果と教訓

- 成果 ◎サロン来場者数(2015年4月1日~2016年3月25日の10時~16時に来場された方) 延べ3.740人(女2.508人、男912人、子ども320人)
 - ◎催し物開催回数と参加者数(年間・延べ)
 - 手芸関係 ~10回開催 参加者約98人 木工体験 ~11回開催 参加者約120人
 - •健康の取り組み(健康体操、健康チェック、ハンドセラピー等)36回開催 参加者約260人
 - ・試食会、おしゃべり会等 20回開催 参加者約200人
 - 地域講座「老いても楽しく元気で安心して暮らすための講座」参加者45人
 - 1周年記念イベント「住人十色祭」参加者 約100人 ・おでかけサロン(バスハイク)参加者43人 ◎北九州市社協主催サロン活動セミナー(対象=サロン活動者300人)で、事例発表・パネラーとして指名を受 け、民間が行っているサロン活動として活動紹介を行いました。
- 教訓 生協の組合員活動は組合員の中で完結しがちな傾向があり、また事業が前面にでると営利団体と同様にみられ ることもあるので、地域活動の中では一線を引かれることもありますが、今回サロン活動を進めるにあたっては、 そのような壁を感じることは全くありませんでした。目的が地域ニーズに合っている事、住民主体で責任を持っ て地域に働きかける事、積極的に他団体との連携を求め、生協という枠にとらわれずに地域貢献を目指すことで、 逆に生協の組織力を感じ、生協への信頼を高めることが出来たと思います。

将来イメージ

あっぷるサロン沼は常設の開かれた場という特性を生かし、多くの人がそれぞれの関わり方で地域活性化を実践する場を 目指します。お客さんやお世話する人される人ではなく、一人ひとりが主体的に関わることで、生きがいを失わず、困った時や 弱った時でも安心して支えあえる仕組みがある、頼もしくて楽しい地域の拠点です。多くの人が関わり、モチベーションを保ち 続けられるような仕組みを構築し、高齢者はもちろん、若い人も安心してこの町に住みたい、という地域づくりに貢献すること をイメージしています。

特定非営利活動法人 くくのち



活 動 名 過疎地域買物支援事業

協同した団体

●生活協同組合コープいしかわ

活動内容概要

金沢市東原町に設置してあるコンテナハウス「マチオモイ」 を拠点に過疎地域での買い物支援を行いました。

【地域通貨】

経営を安定させ、長期に渡って継続する取り組みとしていく 為に地域通貨を導入し、より多くの方に利用してもらうための 取り組みを行いました。

【東原ふれあいフェア】

10月24日に旬の食べ物を「食」してもらい、秋の里山を体験してもらうイベントを開催しました。当日は、600人程度が来場され「買い物支援拠点マチオモイ」の取り組みについても紹介しました。

その他、「店舗の安全対策」「里山保 全活動」「里山地域の協働活動促進セ ミナー」「視察」など行いました。





他団体と協同することで発見したこと

コープいしかわとは、この買い物支援事業だけでなく、農産物の出荷、里山保全活動と、都市と農村間のヒトとモノの流通ができ、連携した活動が拡大してきましたが、何よりも継続性のある取り組みが必要であると実感しています。

成果と教訓

- 成果 ◎今年の視察件数は、10件でした。買い物に関する問題を抱えている地域の方々からは、買い物支援「マチオモイ」の仕組を取り入れたいとの声もいただきました。
 - ◎毎回、注文した品物を受取る日は、住民の集まる場になってきました。
 - ◎里山の旬の「食」と里山を体験してもらうイベント、「東原ふれあいフェア」を開催し、来場者は前年よりも増加し、当日600人が参加されたことで交流人口の拡大に繋がりました。今回の参加スタッフは、地域住民、学生、当法人と合わせて50人程度となり、スタッフの参加人数も増加してきました。
 - ◎他の地域からもまちづくりに取り組みたいと相談が3件ありました。
 - ◎地域通貨を導入したことで、住民が竹林の整備店舗に積極的になり、ご利用単価が上がってきました。
- **教訓** 一つの集落で取り組んできた買い物支援「マチオモイ」ですが、当地でのセミナー開催、全国各地からの視察を受けるようになり、同じ課題を抱える地域が多くあることがわかってきました。特に東日本大震災の被災地から訪れる方々からは、この仕組みを取り入れたいとの声もいただき、各地で役立てられることが楽しみであり、更に充実した活動としていきたいと考えています。

将来イメージ

- 買い物支援拠点を「マチオモイ」を地域の困りごとの解決、都市住民と地域住民の交流拠点としていきます。
- まちづくりのモデルとして、他の地域に波及させていきたいと考えています。



庄内医療生活協同組合(上郷支部)



| 活 動 名 たまり場 「ちよさんの家」 を中心に、地域の魅力を発揮した生きがいづくり

協同した団体

- ●鶴岡市上郷地区自治振興会 ●鶴岡市大谷自治会 ●上郷地区熊野長峰MG研究会
- ●生活協同組合共立社●なんば助産院

活動内容概要

- 1. 地域の魅力を生かした生きがいづくり・仲間づくりの取り組みを行いました。
 - 庭先に咲いている自然の草花を描いてみよう、絵手紙教室
 - 地元の山を散策し、心身をリフレッシュしよう、里山ハイキング教室・・・など
- 2.「地域まるごと健康づくり」と主体的健康度アップの取り組みを行いました。
 - 病気をしても寝たきりにならないように、週1回の介護予防教室
 - 医療・介護などの学習会、全地区民に呼びかけての健康講話・・・など
- 3. 高齢者たちの買い物支援の取り組みを行いました。
 - 買い物に困っている高齢者や住民の買物支援・移動せいきょう便、 生協買い物バスの運行





他団体と協同することで発見したこと

- ●空き家を利用する活動を始めて3年6か月、他にも空き家が増え、さまざまな問題が起きている中で、地元自治会からは地 域の防災上や環境整備、安全面などからとても助かっていると喜ばれ、空き家活用の意義を再認識しています。
- ●地域の諸団体や個人などの協力を得ながら活動している中で、殆んど生協や医療生協に関心のなかった人が、教室に顔 を出したり、自分の農地をミニ農園教室に提供してくれます。私たちにとっては新たな出来事であり、発見です。協同とは 常に新しい人の輪を広げてくれることを実感しています。

成果と教訓

- 1. 地域まるごと健康づくり活動は、2015年度も一層地域に根ざした活動を展開することができました。 ■成果■
 - (1) 週1回の介護予防教室は、3年6か月間で140回、延べ参加者数1.350人、地域にしっかり定着しました。
 - (2) 地元の地区自治振興会との共催行事、健康講話は今年も大盛況、全家庭に案内チラシを配布、当日は51名 の参加者で研修室は満席となり、大きな成果でした。
 - (3) 自治会・社会福祉協議会主催のお茶のみサロンの運営に、ちよさんの家世話人の数名が参加しています。 今後の地域包括支援につながればと思います。
- 1. 地域の特性と魅力を生かした生きがいづくり活動では、特に2つのことを新たに取り入れてみました。 ■教訓■
 - (1) 地元のアコーディオン奏者を講師に「うたごえカフヱ教室」を開催しました。年2回、1回15人~18人が参 加し、集った人たちは懐かしい曲に大喜び、元気良く歌い、心がリフレッシュしました。
 - (2) 孟宗竹林・ミニ農園への挑戦です。年配農家の人から声をかけられ、ミニ農園としてお借りし早速竹林の 手入れをしました。世話人会より5人ほど参加いただき、地元の人との新たな出会いがありました。春の孟 宗堀がたのしみです。
 - 2. 私たちの協同のたまり場活動が、地域の人たちに喜ばれ、ささえあいの支援に役立っていることを2015年 度も実感でき、貴重な1年でした。

将来イメージ

- 1. 2016年度は新設も含め、介護予防教室など9つの教室活動、地域の諸団体との共催行事にたくさんの参加者が集まると 思います。一人ぼっちのお年寄りや認知症の人たちも気軽に参加できる、そんなたまり場にしていきたいと考えます。
- 2. 協力・協同による地域包括支援について、地域の人たちとよく相談し、これからの支援策を具体的に前進させていけるよ う、実践を重ねていきたいと思います。

茨城県内への避難者・支援者ネットワーク ふうあいねっと



活動名

ふくしま (Fu) といばらき (I) をつなぐ事業~広域避難者の孤立防止

協同した団体

●いばらきコープ生活協同組合 ●福島県復興支援員 ●浪江町復興支援員

活動内容概要

【野外イベント】

- 福島と茨城の食の交流として、福島大学生による福島産米の販売を行いました。
- 那珂湊焼きそば大学院による焼きそばの販売を行いました。
- いばらきコープのスープ、菓子を提供しました。

【屋内イベント】

- 茨城大学院生の小野田明さんが製作した「ある町」を上映しました。
- ・福島生活協同組合連合会 佐藤一夫さんの基調講演「東日本大震災・原発事故から5年 福島は今…」を行い、終了後、映画、基調講演や自分たちの思いを話すリレートークを実施しました。





他団体と協同することで発見したこと

福島から避難されている世帯への訪問活動を行っている福島県復興支援員、浪江町復興支援員との協同により、幅広い広域避難者の方の状況を踏まえた企画ができました。

また、当団体にとっては、初の屋外での出展企画で不安もありましたが、いばらきコープさんの協力・支援により、無事開催することができました。茨城県内のまちづくり団体などにも協力いただくなど、企画を通じて、更に多様な団体との関係が作れたため、今後の連携につながればと期待しています。

成果と教訓

- 成果 食の交流イベントでは、福島大学の学生と茨城の大学生が参加したので、学生間での交流につながりました。 午後からの上映会・基調講演の参加者は60名で、映画「ある町」を観た来場者からは「ふるさとへの思いがつまった素晴らしい映画だった」「双葉町の方々の現状が分かり、少しでも気持ちを共有できた」「当事者の思いを自分の問題として共有したい」という感想をいただきました。映像を通して福島の現状を知り、ふるさとへの思い、避難者の思いに共感することができたと思います。またマスコミ報道も、NHK水戸放送局(テレビ)、朝日新聞、茨城新聞、東京新聞でなされ、広く社会に情報発信することができました。
- **教訓** 当初、イベント会場として予約していた県所有の会議室が、2ヶ月前に、県のイベントと重複するため予約キャンセルとなり、会場を変更せざるを得ませんでした。次回からは、早めに会場を確定できる場所での開催としたいと思います。

午後からの上映会・基調講演・リレートークを予定の3時間30分で実施することができず、休憩時間を削った上、予定終了時間より30分オーバーとなってしまう結果となりました。タイトなスケジュールは来場者にとって負担感が大きいため、プログラム進行はゆとりをもって行えるように工夫したいと思います。

将来イメージ

福島と避難先である茨城の交流は、お互いの良さを知る機会となり、また避難元、避難先のそれぞれの当事者の方の状況を知る機会にもなりました。今後も情報発信と交流を継続し、避難先である茨城に定住する方、福島に戻る方双方にとって必要な情報を届けていきたいと考えます。

地域つながりセンター



諸団体のつながりや行政との協働をすすめ、「医療・介護・くらし等」を包括的につなぎ 「誰もが安心して住み続けられる地域づくり」をめざす

協同した団体

- ●協同した団体JAしまね(本店・くにびき地区本部) ●松江保健生活協同組合
- ◉生活協同組合しまね ◉島根県社会福祉協議会 ◎松江市社会福祉協議会
- ●松江地区社会福祉協議会会長会●おたがいさままつえ●おたがいさまいずも
- おたがいさま雲南

活動内容概要

①第6回地域ケア連携推進フォーラムを開催しました。 「あったか地域づくり協議会」において、松江市 社協と「地域つながりセンター」が事務局となり、 連携の具体化を「カタチ」にするべく、2年間に わたる取り組みがスタートしたところです。





- ②地域のインフラとして、さまざまな「おたがいさま」の広がり支援を行いました。
- ③広報活動については、以下2点行いました。
 - ●DVDで「男性の地域活動における想い」を記録し、まとめました。
 - ●センターでの諸団体の話し合いの場を広く紹介するための会報を年に2回発信し、活用できました。

他団体と協同することで発見したこと

- ①あったか地域づくり協議会の会員団体はもとより、NPOや公民館との協働を進めていく中で、地域の中に皆で新しい機 能を創っていきたいという意識が高まっています。
- ②運営において、協同組合からの女性の参加が多く、地域の場づくりへの雰囲気等に影響を与え、誰もが自由に意見が言え、 共に考えていく場づくりに寄与しています。
- ③地域に根ざした数団体が参加を呼び掛ける集まりは、年代や役割の層が幅広いため、グループトークを実施する場合も 多様な視点での交流が出来るようになってきました。

成果と教訓

- 成果 ①数年間の継続的な連携活動を通して、今年度、当センター代表は、「松江市地域福祉計画策定委員」に選出 され、協同組合からの行政への参画の機会を得ました。
 - ②今年度の地域ケア連携推進フォーラムは、高齢者に偏りがちな「地域包括ケア」のイメージを払拭するため、 地域に暮らす全ての人々を対象にした3つのセッションと、全体会としました。
 - ③4生協12団体の「おたがいさま」交流会を実施できたことで、全国に広がる18団体「おたがいさま」との交 流・研修の場として、「全国サミット」への足掛かりができました。
- ①「子どもの貧困」 島根や松江の現状について、行政からもフォーラムで報告を頂きたいと、さまざまな機関を ■教訓■ 数か所回ったが受けていただけませんでした。しかし、この課題が、まさに「これから取り組むべき課題」であ るとの認識は一致でき、今後の私たちとの関わりや協力について大きな理解をいただくこともできました。
 - ②市民にとっての交流や場づくりから牛まれるさまざまな参加意欲をつないで形にする「地域のコーディネータ 一」のような存在(役割)が必要と考えます。行政をはじめとして、地域の中に、その機能をはっきりみること ができませんでした。協同組合、非営利団体等の役割発揮の大切さ、そのスピード感も大切だと感じました。

将来イメージ

- ①地域つながりセンターを活用し、地域に必要な場・つながり、しくみなどを、行政からの協議参加も含めて、そこに住む人た ち自身で、作り運営していく「カタチ」が、地域にたくさん生まれると嬉しいです。
- ②現在、松江圏域が中心のこの活動モデルが、県内各圏域でのヒントになり、つながりセンターの場の活用も含めて、県内に 圏域ごとの連携活動が広がると嬉しいです。また、企業、各福祉法人などとの協働のきっかけができるとよいと考えます。





特定非営利活動法人 きょうどうのわ



活 動 名 出前相談ユニット 「なんでも相談サロン」

協同した団体

●生活協同組合コープこうべ 第3地区活動本部 ●神戸市東灘区社会福祉協議会

活動内容概要

申請当初は、コープこうべ組合員や民生委員・婦人会・NPO・地域ボランティアなどが行っている食事会・喫茶会などに 出向き相談会を開く予定でした。

しかしながら事業着手の段階で協同団体との協議の結果、3年間の活動を視野に入れ、今年度はその第一段階として以下の3点を目的とし活動しました。

- ①地域において活動グループ(居場所など)をつなぎ連携をつくる
- ②活動グループと専門職をつなぐ
- ③サロン (話し合い) の中から地域の課題を見つける

具体的には、区内7地域で8~10月に1巡目、1月に2巡目のサロン (地域活動者の話し合い)を行い、3月に報告会&合同研修会 (講演「介護保険制度改正と地域の居場所作り」神戸学院大学・藤井博志教授)を開催しました。また、コープこうべのイベントにおいて、専門職ユニットによる一般向けの出前相談会を2回開催しました。



他団体と協同することで発見したこと

コープこうべ、東灘区社協ともに、それぞれ固有の地域活動ネットワークを持っていますが、これまであまり相互交流の機会がなく、また東灘区では多くのNPO法人などが活発に活動していますが、これらの団体と区社協やコープに登録するグループの連携・交流が少なかったと思います。今までこの3つの輪を有機的につなぐ仕組みがなかったことに気づきました。

成果と教訓

- 成果 1)予想を上回る人数と多様な団体が参加しました。
 - ①なんでも相談サロン 参加者:1回目148人/2回目136人/合計(14開催) 284人
 - ②報告会&合同研修会参加者:87人 ①②参加団体 延べ70団体
 - ③出前相談会(11月:専門職3人·相談者20人、3月:専門職5人·相談者20人)
 - 2) 実効性のある地域のネットワークの第一歩となりました。

エリアを区切り、きめ細かく巡回することで地域特有のつぶやき (くらしの困りごと) を拾うことができました。 同じエリアで活動する団体や専門職が初めて同じテーブルにつき、地域について話し合い、課題を共有できたことが最大の成果であると考えます。参加した活動グループや専門職からも「なんでも相談サロン」の継続を望む声をいただきました。

■ **教訓** ■ 東灘区内(人口約20万人)7エリアを回って、山沿い、海沿い、高齢化の進んだ地域、子育て世代の多い地域、外国人の多い地域など、様々で一括りにできないことが分かりました。「くらしの困りごとから地域課題を考える」ときに、どの範囲で生活圏を切り取るかが非常に重要で、地域課題の共有が活動者の連携につながると考えます。

また、長年同じエリアで同じような目的を持ち活動してきた団体が「同じテーブルにつく」という、これまであり そうでなかったことが地域力向上の第一歩となることを実感しました。

将来イメージ

来年、再来年と回を重ねるごとに、今回できた地域のネットワーク (顔合わせ・相互理解・課題共有の段階) が新たなチャンネルに発展し、これまでになかったような課題解決につながる新しい活動が生み出されることを期待しています。

特定非営利活動法人 エム・トゥ・エム



活動名

協同の力で支え合い、なんとかなるさと思える地域づくり「さるなかとんな」

協同した団体

- ●生活協同組合コープあいち ●南医療生活協同組合
- ●特定非営利活動法人 地域福祉を考える会まごころ ●特定非営利活動法人 よつ葉

活動内容概要

学びの場の開催として、南医療生協の専門家による健康づくりのための会、健康ヨガ講座、認知症予防講座、絵手紙教室を開催し、子育て支援として絵本の読み聞かせや産後を共有する会 (バランスボールによる産後骨盤矯正と子育ての悩みを話す)、男性を対象とした麻雀の会を毎月定期的に各2回開催しました。

おたがいさま食堂 昼の部、夜の部を設け、多くの人たちに出てきてもらいやすいように工夫して開催し、赤ちゃんから高齢者まで参加する会となりました。行政職員も個人として参加され、今後も相談できるきっかけとなりました。 さるなかとんな実行委員会を毎月定期的に開催しました。

南医療生協、コープあいち、それぞれの組合員、多分野の団体で支えあいの仕組みづくりに向け相談し、南医療生協のお互いさまシートを参考に今後の取り組みを考えています。

3月の会議から瀬戸市高齢福祉課の職員3名も加わりました。今後こども家庭課の職員参加もお願いできました。4月以降の会議には行政職員の参加も確認でき、一緒になんとかなるさと思える地域づくりを目指していきたいと考えます。





他団体と協同することで発見したこと

- ●それぞれの専門性、強みを再発見でき、協同することで情報発信先も増え、事業が継続しやすいとわかりました。
- ●協同して同じ目標に向かうことを具体的に共にすることで、強いネットワークができました。

成果と教訓

- ■成果 ◎退職後の男性を対象としたメンズクラブを作り麻雀をする日を設けました。最初は4名から始まり、4回目を迎える時には10名に増加しました。一日中一人で引きこもっていた男性や認知症を抱える男性の奥様から参加希望があり、久しぶりに笑顔を見たと家族の方から大変喜ばれました。
 - ◎おたがいさま食堂には、4回で114名、幼児から80代までの参加がありました。
 - ◎さるなかとんな協議体では、当初、関係団体のみで話し合いを重ねていましたが、3月30日の会議の場に瀬戸市高齢福祉課の職員3名が参加され、今後も参加されることになりました。
 - ◎研修では、福岡市の宅老所よりあいの見学に6名で行くことができ、今後準備をしたい場所として参考になりました。
 - ◎学びの場として多くの講座を開催した中で、歌声は参加が増えて、4名から始まり、16名となっています。
- **教訓** ◎学びの場の開催では、高齢者・男性、子育て中と、対象の世代を分けた形で行っていましたが、同じことを違う世代を対象に行っていたことに気づきました。今後は、対象をあらかじめ想定せず、混ざり合いを目指したいと考えます。
 - ◎送迎が必要な方が多いと考えますが、顔見知りの関係がないと送迎を頼みにくいことを認識しました。

将来イメージ

この場所を地域のたまり場として、こちらが計画することなく自主的に使ってくれる人たちが増えていくことや、つながった人が増え、次は最後の時までなんとかなるさと思えるしくみ、暮らすことができる場所をつくっていきたいと考えます。

守りたい・子ども未来プロジェクト実行委員会



活 動 名 避難者交流会(避難者地震が作り上げる避難者交流の場)

協同した団体

●神奈川県生活協同組合連合会
●神奈川県ユニセフ協会
●公益財団法人 横浜YMCA

活動内容概要

- ●県内避難者交流会を5回開催しました。交流会では、地引網体験・横浜ベイスターズ観戦・みかん狩り・クリスマス会・お 餅つき会を行いました。
- ●ご招待企画を2回行いました。(内対象事業1件=やどりき水源林のつどい)
- ●非難者自身による交流の場として3サークルを立ち上げ、運営のサポートを行いました。 (お料理サークルままどおる、サークルVOICE、サークル英語であそぼう)
- ●交流広場「ふくしまカフェ」では、福島の情報コーナーを設置したり、避難者を対象にドリンク無料券を配布しました。





他団体と協同することで発見したこと

- ●実行委員会だけでは非難者のニーズに応える企画を実施するのは難しく、活動年数が経てば経つほど消化型やマンネリ化した企画になりがちですが、他団体や生協の組合員さんと一緒に活動することで防ぐことができました。
- ●交流会の運営に関わる組合員さんは、日常的に避難者と接していないこともあり対応に気遣いが感じられて好感が もてました。避難者も同様に感じていると思います。

成果と教訓

- ■成果 ◎多くの避難者が参加してくださいました。
 - ◎交流会で顔をあわせるようになった避難者の皆さんは、個々に連絡先を教え合うなどして日常的なつながりの兆しが見え始めています。
 - ◎避難者自身が自主的に運営し、よりお互いが交流できる機会としてサークル活動の立ち上げと運営をサポートしてきました。興味・関心ある事で集った皆さんの様子は、生き生きとしています。
- **教訓** ◎今年度は他団体と共催でいくつかの交流会を実施しましたが、運営方法や意識の共有化に時間をとられることが多々ありました。日常的な交流や情報交換があったうえで共催が望ましいと思いました。
 - ◎震災から年数が経過するにつれ、関わってくださるボランティアさんの数が減ってきています。個人レベルで支援のモチベーションを維持するのは大変難しく、今後活動を続けていくうえでの課題となっています。

将来イメージ

- 2017年の3月末で応急仮設住宅の無償提供が終了します。その時点で避難されている皆さんは、被災地に帰還するのか神奈川に移住するのかを決断しなければなりません。出来ることはごく僅かですが、避難生活の心配が少しでも薄らいだり元気になれるような企画を考えて実施していきたいと思います。
- 相談窓口としてのフリーダイヤルは開設し続ける必要を感じています。



命を守り、 その人らしい生き方が できるようにする



コスモス会(不登校・ひきこもりの子どもを持つ親の会)



活 動 名 困難を抱えるひきこもりの若者の就労支援

協同した団体

●コープみやざき生活協同組合

活動内容概要

- ●コープみやざきの温かい風土の中で仕事での失敗を通して安心と信頼の自己肯定感を高めるための支援を行いました。具体的にはコープみやざき本部での通信の封入作業を、9回(7~3月まで毎月)行いました。
- ●ひきこもりサポーター養成講座では、ひき こもりへの理解と支援を広げるための講 座を3回開きました。



他団体と協同することで発見したこと

当初店舗での見学や職場実習をイメージしていましたが、協同団体との話し合いの中で、若者の状況からみて店舗での就 労体験は難しいと判断しました。ひきこもりや発達障害をかかえる若者の店舗就労のハードルの高さを認識できました。

理解と支援を広げるためのサポーター養成講座は協同団体職場の掲示板への掲示など周知を行ってもらいました。協同団体からは5名が参加し、当日は、家族、当事者、支援者が多く参加しました。協同団体との取り組みで参加者の対象は広がることを発見しました。

成果と教訓

■ 成果 ■ 1. 就労支援

- ◎延べ40名が参加し、後半は、生協への挨拶、作業の進行、終了後の振り返りの会の進行と、全面的に若者が 運営することができるようになりました。
- ◎場を与えられたことにより、思いやりあふれる仕切りを見せる若者がいたり、通常の居場所にはなかなか来ない若者が参加し、頼もしい働きを見せたり、ふだん口数少なく消極的なのに「実習をさせていただいて嬉しかったです。」と心のこもった表現で生協さんに挨拶をする若者もいました。

2. サポーター養成講座

◎3回開催し、延べ126名が参加。別枠での講演会へは123名が参加し、延べ249名の参加でした。ひきこもり及び発達障害、農業を通しての社会や人との関わり、若者をどう見るかなど理解を広げる役割を果たしました。同時に他の支援団体や支援者とのつながりが広がりました。

■ 教訓 ■ ◎実習前の若者の就労体験への意識の統一

職場実習が初めてで、実習をするという意識にまで至っていない若者も当初参加していました。そのため全体の 調和がとれず指導が行き届かないということがあり、実習生と書いた名札を着用し、コスモス会より賃金を支払 うのを辞めるということをしました。それ以降は、各自少しずつ設定した課題を進めていけるようになりました。

- ◎実態に合った就労体験の用意後半になると早く終わってしまうこともあったため、次の段階の作業の見通しを持つべきでした。
- ◎サポーター養成講座では、受け入れ側である企業からの参加が少なく、送り出す支援者側の参加が多いことからも「就労」ということの理解を広げる努力や行政からの支援の必要性を感じました。

将来イメージ

- **就労体験** さまざまな職場や作業を体験し、社会人と触れあい、スキルを身に着けていくことにより、自信を持ってもらい、 社会参加へつなげていきたいです。今回の職場体験を4月以降も就労として続けていきたいです。
- 啓発 理解と支援を広げるために企業訪問やサポーター養成講座を続けていきたいです。

みなと医療生活協同組合みずほ支部 ふれあいサロン「お茶っこサロンS」



活 動 名 瑞穂区いきいきサロン活動の運営

協同した団体

●名古屋市瑞穂区社会福祉協議会●協立総合病院●瑞穂保健所●瑞穂消防署

活動内容概要

地域における気軽な交流の場 (地域のお茶の間) を目指して、おしゃべり、軽い体操、映画、また、気軽なちょい学習の場として、小物作り、折り紙、身の回りにある草花をいける生け花、キーボード演奏での合唱、詩吟、男の台所などを行ってきました。

7月に行う、お茶っこまつりも好評で、40人を超える参加がありました。





他団体と協同することで発見したこと

健康問題、まちづくりの課題、防災等の学習は、自分たちだけでは意識しなければ、気づかないことや、新しい話題や課題 を発見できました。

名古屋市の「走る食品教室」を活用しての施設見学を行い、楽しく地域の経済や工場を知ることができました。

成果と教訓

■ 成果 ■ 協立総合病院作の「コロバンズ体操」のあと「ゆるやかなおしゃべり」をと始まったサロンから、毎週木曜日の半分(2回)を色紙の傘作り、しめ縄作り、折り紙、生け花、詩吟、合唱等の個人の得意技を活かしての活動を加えました。

また、妻を亡くした人の要望から始まった「男の台所」も加わり、興味のあるところだけに参加する人も含めて参加者の幅が広がりました。

◎2014年3月▶57人参加、4月▶65人参加、5月▶59人参加、6月▶76人参加、7月▶62人参加、8月▶22人参加、9月▶60人参加、10月▶74人参加、11月▶47人参加、12月▶54人参加◎2015年1月▶54人参加、2月▶30人参加、3月▶63人参加、4月▶56人参加

■ **教訓** ■ 地域には、いろいろ得手を持った方もいて、それを披露したり、教えたりするきっかけを待っている人、また、知らない人との交流が苦手な人もいます。そんな方々が一緒になって、教えたり、学んだり、話し相手となったりする場所づくりの一つとなっています。

しかし、まだまだ、地域の多くの人に広がったとは言い切れない状況にあり、地域とのつながりへの模索、宣伝と、口コミなど、地道な努力が必要と感じています。

将来イメージ

現在は、医療生協関係者、友人など、世話人や、ボランティアの方々の繋がりの方が多いが、目指すのは、この地域で幅広く広がること・地域における気軽な交流の場(地域のお茶の間)を名実ともに実現したいと考えます。

2015福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川 実行委員会(神奈川県生活協同組合連合会)



活動名

2015福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川

協同した団体

●神奈川県ユニセフ協会

活動内容概要

福島県の子どもたちを神奈川県に招いて、以下の様々な体験をしてもらいました。

日産スタジアム見学、入村式、オリエンテーション、コミュニケーションゲーム、ふれあいの村を知ろう、思い出のアルバムつくり、ミニバレーボール大会、カレーを作って食べよう、肝試し、花火大会、ソレイユの丘であそぶ、バーベキュー大会、海や磯で生き物さがし、サッカー、スライムつくり、はんこを使ってかわいいデコレーション、牛乳パックをつかって楽しく工作、いちご狩り、横浜ランドマークタワー展望台、ラジオ体操。









他団体と協同することで発見したこと

実行委員会団体はもちろんのこと、メーカーや企業、個人など、「何か機会があれば私も協力したい」という方々が大勢いらっしゃり、その思いをかなえる場として大変重要な機能を果たしていると改めて再確認しました。

成果と教訓

- 成果 今回からフェイスブックで期間中の様子を配信しました。保護者からも、子どもたちや活動の内容がすぐ に伝わることで、好評をいただき感謝の言葉を多数頂戴しました。
- **教訓** 生協応援者と学生ボランティアスタッフの事前学習会をしっかりと行ったことで、ボランティアスタッフの意識も上がり、期間中の運営も例年に比べスムーズにすすみました。反省点としては、施設の特徴を踏まえてのプログラムの時間割の見立てが甘かったと思います。

将来イメージ

福島県生協連からの要望がある限りは、かたちや規模はともかく、本プロジェクトは続けていきたいです。

反貧困ネット長野(長野医療生活協同組合)



活 動 名 生活困窮者等の相談・支援活動と生活自立支援活動

協同した団体

- ●マイサポ長野・ボランティアセンター ●シングルマザー支援協会長野県支部
- ●特定非営利活動法人 なかじょう

活動内容概要

生活困窮者等の相談・支援活動を以下の通り行いました。

- ●生活困窮者を対象とした月1回の相談会を軸とした日常的な相談活動
- ●日常的な生活困窮者の居場所 (里庵みんなの家) の運営と行事などの取り組み
- ●月3回の無料学習支援(きずなじゅく)の運営、シングルマザーの会の共催
- ●長野生健会 大久保益栄氏 学習会 まいさぽ長野市所長 土屋ゆかり氏 講演 全国学校事務職員制度研究会会員 荒井正則氏 講演
- ●越冬企画・長野きずな村の事務局運営
- ●長野市ボランティアセンターのつどいにて、学用品交換会を共催
- ●長野市生活支援課との懇談





他団体と協同することで発見したこと

学用品交換会は、長野市ボランティアセンターを通じて「子どもの貧困」に関心ある団体・個人に対し、長野市で子どもの 貧困に向き合う取り組みをつくろうという問題意識を投げかける中で実現しました。

越冬企画・長野きずな村は、物資、寄付金、ボランティア参加者など100人を超える人たちの協力を得て行うことが出来、 市民の暖かさを感じ協力の輪が広がりました。また、ボランティア団体との共同によるきずな塾竹細工教室や、夏冬野外教 室を開催し、幅広いつながりに協同しての取り組みは頼もしく、活動の視野も広がりました。

成果と教訓

- 成果 ◎相談242件(うち下記の相談会で51件、きずな村で8件) ※3月27日まで なんでも相談会11回(同時開催の交流会への当事者参加75人、ボランティア136人)
 - ◎きずな塾36回(子どもの参加461人、サポーターおよび事務局参加303人) ※2月29日まで
 - *きずな塾にて夏・冬2回の野外教室を開催しました。市ボランティアセンターでつながった団体の献身的協力により成功を収めました。
 - ◎里庵みんなの家開所日数 219日(利用者1453人、ボランティア536人) ※2月29日まで
 - ◎第5回長野きずな村(全体参加者180人) ◎大久保益栄氏学習会 10名/土屋ゆかり氏講演 25名/荒井正則氏 講演 37名 ◎シングルマザーの会 10回 延べ50名参加
 - ◎各種行事(お金の使い方教室、布ぞうり教室、料理教室、制度の学習会)に参加
 - ◎学用品交換会 3月19日に開催 10名以上の子ども・保護者が来訪
- **教訓** ◎「里庵みんなの家」の運営について:生活困窮者等の居場所づくりは、更にその先の社会的自立を促すことが 必要で集う人が社会的つながりを回復し、自身を持って巣立つための次の支援が求められます。
 - ◎きずな塾について:子どもの安全を最優先に運営基準を再確認、徹底しておくことが大切だと感じました。
 - ◎運営体制について:社会的使命は益々大きくなっており活動の更なる発展が求められているので、体制を強化し、地域社会において貧困問題の理解を広げ、主体者を増やしていくことが必要と考えます。

将来イメージ

生活困窮者の相談・支援活動が、誰もが安心して住み続けられるまちづくりにつながっていくことを展望し、行政を含めさまざまな団体および個人との連携と協同をつくっていきます。来年度は特に、地域の民生委員、福祉推進員との懇談をすすめ、子どもと保護者の居場所づくりを具体化し、里庵みんなの家の運営について、新たな担い手をつくります。

特定非営利活動法人ソーシャルビジネス推進センター



活 動 名

過疎市町村における介護予防事業 (健康運動指導・認知症予防) を協働で立ち上げる

協同した団体

●生活協同組合コープさっぽろ ●北翔大学

活動内容概要

健康運動指導士8名を北海道の過疎市町村エリアに定住させ、そこを拠点に複数の市町村で介護予防に有効なNPOが自治体から事業を受託し、大学が開発した「科学的」な運動教室「地域まるごと元気アッププログラム」(「まる元」)を「安心」して楽しみながら体力を維持・向上させるために実施しました。





他団体と協同することで発見したこと

生協、大学、NPOの協働は、それぞれの「強み」とネットワークを活用することで、一層緻密な連携が可能になりました。 行政との協働では、行政が新しい「公共サービス」の創出や提供の仕方を学び、協働の1パートナーとしての責任分担ができるように変化していくことが見られました。

成果と教訓

- 成果 ◎16年度から新たに6市町村で「まる元」が採用。17年度からは24市町村での実施が見込まれるまでに成長することができました。
 - ◎新規に採用した新卒の健康運動指導士4名は順調にスキルを向上させ、研修の効果が十分にみられました。 更に、8月には、埼玉県川越市で病院に勤務していた健康運動指導士を途中採用し、経験を生かして運動教 室担当に加え若い健康運動指導士たちの育成・指導を行いました。現在家族で上士幌町に住んで、余暇に 「サッカー少年団」の指導を行うなど、地域に溶け込んで「まる元」の「地域まるごと」の精神を実践してい ます。
 - ◎「介護予防は市町村の仕事」として大きな関心を示してこなかった北海道も、16年3月16日の道保健福祉部主催の「北海道介護予防推進フォーラム」に「まる元」を招待しました。150名の聴衆の多くは北海道内の市町村で介護予防に携わる専門職員で、介護施設の職員も集まりました。私たちNPOと北翔大学からの報告に加え、寿都町、芦別市の担当職員から「まる元」採用による効果の報告が行われました。
 - ◎日本認知症予防学会に加入し、科学的な根拠にもとづく認知症予防活動のスキームを確立できました。
- 教訓 行政に「まる元」に対する「理解」をしてもらい採用決定まで予想以上に複雑でした。

将来イメージ

「まる元」が北海道の多くの自治体でスタンダードとして取り入れられるようになり、「コープさっぽろ」の社会貢献的性格が住民の中に信頼と共に定着し大学が住民の健康増進と社会コストの削減に有効な人材育成、プログラム開発、エヴィデンスの検証を行うことが、自然の営みとなるよう活動していきます。

また、このような社会づくりに貢献するNPOやソーシャルビジネスを「起業」する若者を育てます。

いわて生活協同組合



活 動 名 お茶端会議の開催

協同した団体

●陸前高田市社会福祉協議会 ●読書ボランティアおはなしころりん

活動内容概要

仮設住宅から復興住宅や自力再建などで移られた方の新たなつながりを作る場として社協が取り組んでいる「お茶端会議」に、地域のサークル団体と協力し行いました。

生協は、組合員が支援活動として取り組んでいる手芸用のキットや簡単なレシピ集「3行レシピ」を活用しての料理教室、笑いヨガの講師調整などでお茶端会議のメニューを提供し、地域のサークル団体「おはなしころりん」は、読み聞かせの協力を行いました。

また、支援する担当者やボランティアの研修、交流の場を実施しました。







他団体と協同することで発見したこと

- ●社協:お茶端会議を実施するうえで手芸等の企画があると参加が増え、材料持参で生協が準備してくれるので、生協が担当してくれる日はホッし、自分たちも一緒に取り組めるので嬉しいです。
- ●お話ころりん:自分たちだけでは手の届かない、行った事のない会場・地域で取り組めたこと、生協とのつながりから、他の企画でも声をかけていただけるようになり、いわて生協のサロンにも協力いただくようになりました。
- ●生協: ボランティア数にも限りがある中、生協だけでは出来ない支援活動に、社協「お茶端会議」を一緒に開催することで地域のつながり作りも進みました。

成果と教訓

- **成果** ①いろいろな団体が関ることで、企画の幅が広がり、参加団体がそれぞれのもっている良さや力を活かす場になりました。協力する団体がいることで開催の負担が軽減され、開催側も楽しむことが出来ました。
 - ②活動に関わるメンバーが、交流会を開催したことで自分の関り以外の活動や状況を知り、復興支援の活動や 事業を全体的な視点で見直すことができ、今後どのように支援のとりくみを進めていったら良いか考える機会 になりました。
- **教訓** ①社協が2014年度から継続して行っている取り組みに、協力という形で関らせていただきましたが、今後も関らせていただくとしたら、復興支援活動から一歩進めて、一緒に地域の居場所を作る、地域の福祉を充実させるという視点で協同できればと思います。
 - ②社協の皆さんにもご一緒していただければと傾聴ボランティア講座を開催しましたが、ボランティアではなく 仕事という意識と社協としての傾聴への考え方があり、参加が難しかったようです。

将来イメージ

復興住宅や新たな地域でのコミュニティ作りが進み、孤立する方が出来るだけいないように場作りをすすめていきたいと思います。いずれは、いろいろな団体やボランティアとネットワークを組み、支援活動としてではなく、地域のふれあい交流の場として実施していきたいと思います。

生活協同組合あいコープみやぎ



活 動 名 お茶っこケア 地域サロン「よってがいん」

協同した団体

- ●特定非営利活動法人 お茶っこケア ●特定非営利活動法人 井戸端介護
- ●特定非営利活動法人 わらいの館四季 ●めぐるJapan
- ●特定非営利活動法人 和 認可外保育施設ちるぴよ ●国見
- ●千代田のより処 ひなたぼっこ ●石巻クリスチャンセンターンセンター

活動内容概要

1. よってがいん

昼食と居場所作り 週6回(日・月・火・水・木・金) 開催しました。スタッフと利用者とあいコープみやぎ の組合員が一緒に工夫しながら、協力して昼食作り食 材費支援をしました。延べ約3,120人参加しています。

2. 地域世代間交流会

9月17日に開催し、30名が参加しました。

渡波地区における新旧住民の誰もが、楽しみながら 参加でき顔見知りになり、関わりを作ることでコミュ ニティーの再生に寄与したいと思い開催しました。

3. お茶っこまつり

2日間開催し、180人の参加がありました。

3.11東日本大震災から5年が経ち、ご支援への感謝と地域包括ケアシステム一新しい総合事業を見据えた居場所づくりを参加者とともに考えたいと願い介護講演会などを開催しました。











他団体と協同することで発見したこと

他団体と活動を紡いでいくときには、各団体の得意とすることを学び合い成長し合える機会でもあると気が付きました。

成果と教訓

■ 成果 ■ 河北新報や石巻日々新聞からの取材もあり紙面に掲載され、活動を広く地域の皆さんにお伝えすることができました。また、それらの活動を通して生まれ育った繋がりにより、石巻市渡波地区において地域住民の皆さんから介護の相談を受けるようになり、地域包括支援センターなどともより良い連携が取れるようになりました。他団体NPOなどとの繋がりができ、地域の様々な情報も入るようになりました。

復興の地域コミュニティ再構築、復興への課題と解決に向けて、他団体と話し合う機会も持てるようになりました。2016年度の活動についても、より発展性のある活動へと広げて皆さんとともに考えることができるようになりました。

■ **教訓** ■ 数多くの団体と出会い、協力して企画運営できたことは財産になりました。よりお互いに知り合うためには、実行委員会などの方法もよいと思いました。お茶っこまつりは、前日に積雪に見舞われる中での開催でした。今後の企画時期を考える際には雪を考慮したいと思いました。

将来イメージ

新しい人の繋がりを紡ぐために「夏祭り」を開きます。「新渡波地区」の皆さんとの交流を通して、顔見知りになりたいと思います。

いつでも誰でも気兼ねなくお茶っこのみできる地域サロン「お茶っこサロン」(仮称)を将来的には継続していきたいと思います。新旧住民の方々のお知恵とお手伝いをいただきながら、継続を目指します。



水橋福祉事業所連絡会



活 動 名 いつまでも安心して、元気で暮らし続けられるまちづくりを地域ぐるみで取り組む

協同した団体

■富山医療生活協同組合■富山県生活協同組合連合会

活動内容概要

いつまでも元気に暮らしたいという願いにこたえるために、現存する地域の自主サークルへ、「シルバーリハビリ体操」の講師派遣を計65回行いました。





他団体と協同することで発見したこと

昨年度に引き続き、講師派遣や活動を伝えるニュースの配布に協力していただいたことで、参加者の定着、拡大に結び付きました。

成果と教訓

■ **成果** ■ 昨年度に引き続き、シルバーリハビリ体操の講師である病院や介護事業所のリハビリ職、介護福祉士さん、地域元気化プロジェクトの皆さんにとっては、地域住民に直接体操を指導する場が作られたことで通常業務以外の地域の生の実態をつかむことができ、非常に勉強になったと聞かせていただきました。またこうした取り組みを通じて地域住民にとってもより一層安心のまちづくりが実感でき、機運が高まったとサークル参加者の方との会話から感じられました。

サロン梅の湯の体操サークル参加者5人が講師となり、水橋東部公民館や水橋三郷地区の3つの町内の長寿会への指導を始めました。

■ **教訓** ■ 今年度限りの助成金の実情をお話ししたところ、派遣先の自主サークルの方達が次年度の取り組みを考える中で、「講師の派遣にはいくらかかるのか」「会費はいくら集めればいいのか」など継続させるための財政的基盤に踏み込んで考えて下さるようになりました。

将来イメージ

自主サークル運営責任者の懇談会を開催しお互いの苦労をねぎらい、メニューの共有や運営のノウハウを交流して、さらに活性化させます。

特定非営利活動法人 応援のしっぽ



活 動 名 手しごとコミュニティの運営支援としての手作り商品販売路拡大及び事務軽減活動

協同した団体

●みやぎ生活協同組合●みやぎ連携復興センター●JCN

活動内容概要

- ●手作り商品カタログVol.4及び5の制作・発刊を行いました。
- ●手作りコミュニティの販路拡大のための営業活動を 行いました。
- ●販売ネットサイトの個人販売への移行が見込める 業務軽減のためのシステム開発に取り組みました。
- ●手作り商品の一括受注発送センターの運営や、ギャラリーショップの運営を行いました。









他団体と協同することで発見したこと

紹介が紹介を呼んで、いろんな団体さまに繋がっていき、枠組みへのアイデアや、商品開発への取り組み方の提案、情報の拡散など、ただ購入するだけはない支援へと繋がっていきました。たとえ売上に直接結びつかなくても、活動を知らない人が知り、励ましの言葉をもらうことにより、作り手さんたちや支援活動を行っているボランティアたちの励みとなりました。

成果と教訓

■ 成果 ■ 売り上げが、2014年度:7,960,654円から2015年度:9,128,556円へ伸びました。

震災記憶の風化とともに、手づくりコミュニティ毎の直接販売売上は平均して右肩下がりではあるものの、 当活動 (カタログ) を通しての売上は増加傾向にあります。今まで購入してくださった方たちが、周りに広めてくれている効果が、新規顧客、また、活動に関わってくださった人数として表れていると考えられます。 2014年度: 30人 \rightarrow 2015年度: 80人

各イベント販売などで関わってくださったコア人数のみを大体で集計していますが、実際に生協イベントなどへのボランティア参加人数などは含まれていないため、数字以上の方々が参加されているのは確実です。昨年度と比べても倍以上となり、数字のうちの7割は各生協が占めています。購入などのやり取りから発展し、定期的に有志で集まり、長期的に他に何ができるか、参加型の支援を考えて貰える方たちも現れてきました。実際に商品開発に携わってくださり、受注生産へと繋がっています。

■ **教訓** ■ 初期からご支援いただいている方たちにとっては取扱う商品が手作り小物ということもあり、リピート率が低く、気持ちはあっても再度の購入には踏み切りにくい点の指摘を受けました。売上に繋がらなくても、その気持ちを作り手さんに繋げる受け皿としての枠組みの早期構築が必要と思われます。商品開発において、形、値段、色など悩むことが多いです。やはり作り手さんや我々素人のみでの開発には限界があるため、着想・発想はともかくとして、どこかの過程でプロのアドバイスを入れる必要性を強く感じました。

将来イメージ

各手しごとコミュニティ全でが完全に自立することは難しい。「できるだけ続けたい」ではなく、あくまで「絶対続けていくのだ」という覚悟を持ちながら、商品開発や質の向上、営業活動などの自助努力は必要です。それを踏まえてなお、活動の根幹となる「コミュニティ」を大切にして、いかにみんなで乗り越えていけるかが重要と考えます。

当活動を通して、各手しごとコミュニティのコミュニティといった枠組みができているため、支援に頼らずとも活動を継続していけるように、時には助け合い、共に学び切磋琢磨していける組合のようなコミュニティネットワークを目指していきます。

生活協同組合おおさかパルコープ(くらしネット福祉)



活 動 名 手引き・手話を学んで障がい者とともに、支え合う地域づくり

協同した団体

●社会福祉法人 大阪市都島区社会福祉協議会

みやごじま

●「特定非営利活動法人あるる」「自立生活センターあるる」「都島区障がい者相談支援センターあるる」

活動内容概要

- ●手話学習・手引き学習・講習会を開催しました。 障がい者の実生活を学び、コミュニケーション の取り方や、共に行動できる技術を取得しました。
- ●手話、手引き講習会で取得した技術をいかし、 障がい者とともに収穫体験をし、交流を深めま した。
- ●視聴覚障がい者・健常者が一緒 に楽しむ中で、お互いに違いを認 め合う場と位置付けた落語講演 会を開催しました。
- ●「いざという時・困った時」や「くらしの中の見近な情報」を集めた "みやこじまくらしのマップ"を作成しました。



ガイドヘルプ (手引き







他団体と協同することで発見したこと

両団体ともに、高齢者・障がい者などに対して事業や支援活動などを総合的にとらえた地域に根ざした組織で「福祉の理念」「街づくりの視点」など多くのことを気付かせていただけ視野が広がりました。

成果と教訓

- 成果 ◎手話講習会は延べ25名が参加し、講師がベテランで参加者から解かり易かったと好評でした。
 - ◎手引き講習会は延べ56名が参加し、すでに講習を受けた人にも呼びかけ改めての再講習でレベルアップが 出来ました。
 - ◎バスでの収穫体験は45名が参加し、手引き講習会参加者2名が手引き者となり、初体験の場となりました。 スタッフのフォローを付けたのも正解、楽しかったとの感想をいただきました。
 - ◎桂福団治さんとお弟子さんによる、落語講演会は156名が参加し、障がい者と健常者が共に笑い、涙し、楽しみ、参加者の表情が柔らかく感じとれました。
 - ◎みやこじま くらしのマップ 日頃のお付き合いのない所も記載に協力いただけました。
- **教訓** ネットワークや地域とのお付き合いの必要性を持ち続けてきましたが、この事業を進める中で、実現し方向性やネットワークの大切さなど、将来的なイメージが見えてきました。

手話講習会では、初めて外部の講師を迎えて開催でき、今後の講習会の参考にする点を多々学べました。 社協より、徘徊高齢者の見守りメール配信サービス事業の開始に伴って、協力団体としての登録申し入れがあり、対応する事ができました。

将来イメージ

障がい者と健常者がともに「お互いさま」の気持を大切に共有しつつ、高齢者や、障がい者が安心して住みつづける街づくりを地域の皆さんと共に進めて行きたいです。

また、地域福祉・ユニバーサルデザインの視点も取り入れたいと考えます。



女性と子どもが 生き生きする



生活協同組合コープおおいた



活 動 名 ふくしまっ子応援プロジェクト5

協同した団体

●大分県社会福祉協議会 ●エフコープ生活協同組合

活動内容概要

「ふくしまっ子プロジェクト」を企画し、福島の子どもたちを九州に招待しました。5日間の流れは、以下の通りです。

7月22日 福島県新地町→仙台→東京駅→成田空港→福岡 空港→エフコープ商品検査センター

7月23日 福岡県朝倉市 (親子料理教室) ⇒筑前市大刀洗平和 記念館 ⇒ グループ別に民泊

7月24日 別府市城島高原パーク⇒大分市宿泊施設「希感舎」 (あいさつ・絵説く・マジック)

7月25日 大分市水族館うみたまご → 田ノ浦ビーチ海水浴 → 温泉 → コープふらいる (歓迎式)

7月26日 ホームステイ宅⇒コープふらいる(お別れ式)⇒大分空港⇒成田空港⇒新地町



他団体と協同することで発見したこと

私たちコープおおいたも大震災から継続して福島復興支援に取り組んでいます。「ふくしまっ子応援プロジェクト」だけでなく、当プロジェクトで知り合った子どもに再び会うため、8月には「親子・ふくしま訪問ツアー」を実施しています。また、震災の年に豊後梅を植樹しました。その豊後梅が咲く頃に必ず訪問する約束をしましたので3月に「コープおおいた職員研修訪問」も行っています。そして、福島の現状を組合員に伝えるために、通常総代会後と秋季(福島訪問後)に「福島報告会」を開催しています。

私たちコープおおいた役職員も、この震災を風化させないという思いで取り組んでいますが、社会福祉協議会の職員はじめボランティア関係者は、生協関係者以上に被災地を支援する気持ちが強く、それらを形にしています。

成果と教訓

- ■成果 東日本大震災の復興の道のりは遠く、福島の子どもたちの環境はまだ厳しいところもあると感じています。 わずか5日間でしたが、震災前のように自然の中で美味しい空気を吸って思いっきり楽しんでもらうこと ができたと思っています。これも、福島県新地町役場、新地町教育委員会(3小学校校長)はじめ、社会 福祉協議会、ボランティア連絡協議会、大分県、労働金庫等々から様々なご協力とご支援の賜物と感謝し ています。コープおおいたとしては、このプロジェクトを通じて、いつも被災地の子どもたちに対する多 くのみなさんの温かい気持ちを実感しています。この子どもたちが立派に成長し、九州の地の温もりを思 い出し、その子どもたちを連れて九州の地を訪れる、そんな深い人間の絆を作り続けたいと願っています。
- **教訓** 仙台からの格安航空便がなくなったため、今回、福島新地町⇔仙台駅⇔東京駅⇔成田空港⇔福岡空港(大分空港)のルートになり、引率者の負担となってしまいました。

将来イメージ

「ふくしまっ子応援プロジェクト」を企画し、毎年福島の子どもたちを九州に招待して、今年で5回目となりました。昨年からは、エフコープ生協にもご参加いただき、支援活動の輪が広がりを見せています。そこで今回、発起人である大分県社会福祉協議会の高橋会長から「この支援の輪をさらに広げていきたい」との相談がありました。高橋会長からは各県の社会福祉協議会に、当生協からは北部九州の福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県の代表理事にそれぞれ声をかけて、みなさんに賛同いただければ、生協と県社会福祉協議会との連携が図れるような勉強会を企画したいと考えています。

「ふくしまっ子プロジェクト」は、そのつながり強化の一環として参加していただき、各県で、社協と生協が連携しながら、福祉・高齢者対策・生活困窮者の救済・フードバンク等々の協力体制の構築につなげていきたいと考えています。

特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク



活動名

学齢期にある低所得母子家庭等への、フードバンクを利用した米の定期支援による 家計支援・生活相談支援

協同した団体

●とちぎコープ生活協同組合

活動内容概要

●宇都宮市を中心とした県央地区の学齢期にある母子家庭などの低所得世帯に対し、当会が実施するフードバンク (FB) で集めたお米を贈呈し、家計の支援を行いました。また、お米の贈呈を通じて、支援対象者から困りごと等をヒアリングできた際には、当会が行う総合相談支援センター機能を使って解決にあたりました。



他団体と協同することで発見したこと

個々の団体では完結することが難しいことでも、お互いの得意分野やネットワークを掛け合わせると成果を得ることができることを感じました。

当会は、職員の人規模が少なく初対面の企業にとっては信用が得られにくいことも、とちぎコープの協力をいただいていることで信用が増しました。また、とちぎコープで行っているフードドライブのノウハウが生かされ、Jリーグ初の試合会場でのフードドライブが実現しました。

成果と教訓

- ■成果 ◎17世帯の奨学米支援を行うことができました。対象世帯の環境変化で短期支援に留まるものもあり、目標支援世帯数には届かなかったものの、昨年度は継続支援世帯がゼロであったのに比べると実施した価値はありました。(1,713kgを贈呈)
 - ◎米の集荷については、4~2月末までで2,371kg。目標の4.8tの数字には遠く及びませんが、対象世帯の数からすると適切な集荷量でした。昨年度の米の集荷量1.500kgと比べると大幅に集荷量が増えました。
 - ◎生活クラブ生協や栃木県労働者福祉協議会や社会福祉法人などからも、職員や組合員などが定期的に食品を当会に寄贈してくれるようになり、来年度は今年度寄贈していただいた団体と協同して県内複数個所でフードドライブキャンペーンを展開できる下地が出来ました。
 - ◎対象者の生活相談については、深い相談までいくケースはありませんでしたが、一部の相談については当会に関わりがあるボランティアのネットワークで探すことができました。苦しい事情を人に話すことができる場が大切であると感じました。
- **教訓** ◎個人情報の壁は、個人を守るためには有効ですが、孤立が進む現代社会においては情報が遮断され、困っている人が見えにくくなってしまっています。助けてと言えず、周りからは気づいてもらえず個人の困窮については放置されています。
 - ◎行政ではない民間のNPOがフードバンク活動を通じて困窮している人たちと接触して現状を社会に発信してく必要性を感じます。奨学米支援対象の世帯は当初、口コミで20世帯ぐらい集まると予想されましたが、努力不足も否めませんが、情報の伝達が思うようにいかず対象世帯の集まりが少なかったと思います。忙しく働いているので情報が不足しているのか、完全に孤立しているのか、世間体など理由は考えられますが、今後聞き取りやアクセス方法の検討などの課題に取り組みたいと考えます。

将来イメージ

この活動を通じて、フードバンクというものを多くの人に知っていただき、フードバンクを通じて接した、困っている人たちの情報を発信し、多くの人たちに関心を持っていただいて活動に参加していただきます。

フードバンクから作る助け合いの輪に入り、困ったときはお互いさまという関係性を作っていきます。

生活協同組合コープあおもり



活 動 名 福島の子ども保養プロジェクト コープあおもり ねぶたツアー

協同した団体

●青森保健生活協同組合●青森中央学院大学●青森中央短期大学

活動内容概要

- ●放射能の影響を心配して、なかなか外遊びができない福島の子どもたちのために、大型バスで親子13組32名を青森県にお迎えし、以下の活動に参加していただきました。なお、活動全体は、理事スタッフと事務局とで準備をすすめ、当日の親子のサポートのために学生スタッフを募集し、理事とチームを組んで、安全に楽しく行動できるようサポートしていただきました。
 - ①大型ねぶたを展示している場所で、ガイドさんの説明を聞きながら見学
 - ②ハネト衣装を着けて、青森ねぶた祭に参加している 生協ねぶたでハネト体験
 - ③浅虫海岸での外遊び (海水浴)







他団体と協同することで発見したこと

- ●安価で設備の整った宿泊先を紹介いただき、予約することできました。
- ●青森県がグリーンツーリズムなどで積極的に国内外の学生を受け入れていることを知りました。(事務局は大学)
- ●企画全体を通して学生の皆さんの積極性と責任感を感じました。
- ●大学としても被災地支援に学生を参加させたいという意思を持っていました。

成果と教訓

- 成果 ©15家族30名の募集に対し、24家族62名の申込みをいただきました。条件を考慮して、13家族32名をお招きすることができました。
 - ◎該当大学からの学生ボランティアは、5名の予定に対して3名でしたが、学生ボランティア参加の企画としたことで、スタッフ理事の息子さんとその友人4名の参加があり、最終7名が参加しました。企画2日目に試験となった学生さんが、初日だけでも参加して下さったり、事前に行ったハネト衣装の着付け教室に女子学生が参加して、組合員との交流の場となったりという場面もありました。
 - ◎コープあおもり内でも、親子の着付けのために、ラッセラの会 (ねぶた運営・実行の会) の方が8名の方がお手 伝いをしてくださいました。
 - ◎採用の内定者12名が、事前研修として夕食懇親会の会場設営・盛り付けなどを通して、コープあおもりの活動とこのプロジェクト参加者の様子などを体験し、とても感動して帰りました。
- 教訓 ◎ボランティア体制を早めに確認できるように、募集時期を早めること。
 - ◎綿密な事前打ち合わせと、ボランティアとのスケジュール確認の必要性。
 - ◎十分に責任をもってやっていただけるので、事前に協議の場を持ち、主体的に運営に参加してもらえるように すること。

将来イメージ

ボランティアによるスタッフ体制を充実させていくことで、以下のことをめざしていきたいと考えています。

- ①地元青森県の子どもたちと福島の子どもたちとの交流の場を作ること
- ②現在は1泊2日ですが、2泊3日の子どもたちだけの企画を開催すること
- ③春や秋の青森の自然を感じていただけるよう実施回数を増やすこと

東京西部保健生活協同組合



活 動 名 おばあちゃん家の放課後

協同した団体

◉杉並区社会福祉協議会

活動内容概要

- ●毎週金曜日午後2時から5時まで、「大原さんち」を 開放し子どもたちを見守る活動を行いました。
- ●子どもと一緒におやつを作ったり、節句の行事など を行いました。











他団体と協同することで発見したこと

和田堀児童館の子育てネットワークに正式に加盟し、地域のボランティアグループと信頼関係が築け、情報の交換ができました。

成果と教訓

■ 成果 ■ 延べ参加児童数

160人

ボランティア延べ参加数

30人

一日も休まず開く事が出来ました。

ボランティアに参加して下さる高齢者が元気になり、子どもの環境なども心配したり、近所からも子どもたちに使ってと文房具や毛糸などをもらいました。

- **教訓** ◎水曜日だけが午前授業なので、曜日の選択ではもう少し考えるべきでした。ボランティアの都合や、施設の都合を優先したのは子どもの実情、要求に合っていませんでした。ボランティアの大人の方が多い日などは、世話を焼きすぎる傾向があり、子どもが自由に出来るよう配慮すべきでした。押しつけにならない見守りが難しいと思いました。(ボランティアの高齢者が張り切ってしまい、自分の教えたい事を手ぐすね引いて待っている状態も見られました)
 - ◎参加人数が少ない時、囲碁を教えたら次の金曜日に友だちを連れてきて、「4年生になったら、学校のクラブ活動は囲碁・将棋に入る」と言われたことは嬉しかったです。来年度は子どもの口コミに期待しています。子どもの要求に副ったおばあちゃん家の放課後にしたいと思います。

将来イメージ

ボランティアの数がもっと増えて、核家族では教えられない、高齢者の生活の知恵や技術が子どもたちに伝承されるといいなと思います。子どもたちが家族だけでなく、地域の大人とも交流出来る事が、見守りになり子どもの安全にもつながります。塾に行けない子どもや、遅れた勉強を見てあげられるようにしたいと考えます。

特定非営利活動法人 ポトスの部屋



活動名

名 子ども・若者の居場所の提供と生活困難家庭の中学生らの学習支援並びに相談活動

協同した団体

●みなと医療生活協同組合 ●あいち定時制・通信制父母の会 ●ポンペ ミンタル

活動内容概要

- ●生活困難と厳しい環境のもとで高等学校 進学への学びの場を求める子どもらへの学 習の場の提供活動
- ●中学生及び保護者への進路相談活動
- ●子ども・若者らの健康で文化的な生活が 維持できる相談活動
- ●居場所を必要とする若者に場所を提供する と共に相互の交流を図る
- ●高等学校進学者の補習学習の支援活動
- ●運営資金確保のための会員の拡充及び寄 附獲得の活動





他団体と協同することで発見したこと

- ●医療生協の機関紙に「ポトスの部屋」の活動が掲載されたことで、学習支援の申込みや見学の申込みがきました。
- ●帰国子女の中学3年生の進路決定にあたり、あいち定時制・通信制父母の会からの情報により、本人の希望に添った進路が決定でき、この春、無事第一志望の昼間定時制に合格できました。

成果と教訓

■ 成果 ■ 居場所活動

- ◎小学校5年生から不登校だった中学3年生の子に居場所の提供とともに学習支援を行い、2015年4月より、 公立の通信制高校に進学することができました。
- ◎不登校の中学2年生の子の学習支援を7月から始め、ポンペミンタルの協力により学校と連携がとれ、9月からはポトスの部屋に来た日が学校の出席扱いになりました。

学習支援活動

- ◎2015年3月、中学3年生9人全員が高校に合格。高校進学後も支援が必要な子については高校卒業を目指し、 学習支援を継続しています。
- ◎2016年3月、中学3年生5人全員が高校に合格。学校もそれぞれ異なる彼らですが、とても良い仲間になっています。 進学後もポトスの部屋利用希望者がいるのでできるだけの支援をしたいです。
- **教訓** 実際に学習支援を始めてみると、貧困や発達障がいなどの厳しい問題を抱えている子どもが多く、学習面だけではなく生活面や心理的サポートなど、多様な支援が必要であるとの認識を有するようになってきました。しかし、全てを丸ごと抱えて支援していくことは不可能であり、「できること」を見極め、持続可能な取り組みをしていくことこそ組織として責任ある選択であると考えます。

将来イメージ

「子どもの貧困」に対して学習支援活動を中心にして、貧困の連鎖を断つため、高校進学ばかりでなく高校卒業まで も関わっていきたいです。また、地域に向かって情報発信を積極的に行い、諸団体との連携を広げていきたいです。

2016年3月30日、特定非営利活動法人の認証を名古屋市からいただきました。法人格になることにより、社会的信用が増し、今後の活動の幅が広がることを期待できます。また、組織として確立することによって団体の持続生・継続性にもつながることとなると思います。

福井県民生活協同組合 ハーツきっず児童クラブ



地域の子育て団体や児童館との協働による企画を開催する

協同した団体

- ◉特定非営利活動法人 生涯体育学習振興機構 ◉なんでも劇団 はやおきぱんやさん
- ◎ スタジオボーカルメイト
 ◎ TAZAKIバンド

活動内容概要

地域の児童館、児童クラブが協働して 事業を行いました。近年、小学生の人数 は減っていますが、共働きや治安の悪化 などにより、放課後児童クラブを利用す る小学生が増え続けています。

平成26年度には小学6年生まで放課 後児童クラブに預けられるように法律も 整備された中で、地域の児童館と児童ク ラブの担う役割は大きくなっています。

今年度は、その2つの施設が連携をし、 小学生が生き生きと活動できる事業を開 催しました。









他団体と協同することで発見したこと

同じ活動を行っている施設同士が連携したことで情報交換ができました。また、小学校、公民館などの支援をもらうこと ができ、地域の子育て力が向上しました。

成果と教訓

■成果■ 2016年10月13日「秋休み運動あそび」小学生(1~6年生)80名参加

> 高学年生が低学年生をサポートする姿が見られたとともに、ボールあそびでは低学年生からサーブをするように し、全員がボールに触れることができて満足していただけました。

2016年12月24日「絵本・音楽あそび」小学生(1~5年生)77名参加

最近の子どもたちは、インターネットやゲームの影響で文字離れをしている中、本格的な人形劇や歌に触れる 機会を作ることができました。

- ◎2回の活動を通して、たくさんの子どもたちの参加があり、子どもたちから「またやりたい。」「また来たい。」 と言う声をたくさんもらいました。
- ◎児童館・公民館との連携も深まり、来年度にも繋がる行事となりました。
- ◎福井市の他の地域にも児童館と児童クラブがありますが、連携はほとんどなされていないのが現状です。今 回の光陽地区をモデルに、これから連携を深めていく地域が増えていくように、活動を広げていきたいです。
- **教訓** ◎児童クラブが今年度立ち上げで、地域であまり知られていないこともあり、活動を行う機会が秋休みからと 遅くなってしまいました。
 - ◎発達障がいを持った子どもや、じっとしていられない子どもが増えており、活動を行う時もしっかりとした対 応を行う必要があるため、研修や勉強していく機会を増やしていかなければならないと感じました。

将来イメージ

地域で安心して遊べ、地域全体で子どもを見守り、育てていく環境に繋がる活動を広げていきたいです。地域の子育 て機関との連携をさらに深め、家庭での子育てを支援していきます。

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ



活動名

ママの笑顔が社会を変える

― 楽しい子育てとママの社会参加をすすめるプロジェクト ―

協同した団体

●生活クラブ虹の街 ●特定非営利活動法人 おやこカフェ ●人形劇サークルドロップス

活動内容概要

- ●人形劇サークル「ドロップス」等の公演 エプロンシアターや絵本の読み聞かせ、人形劇の公演や「わらべうたであそ ぼう」を実施しました。
- ●「子育ても仕事も自分らしく」をテーマにした講座等の開催
 - 女性のための起業講座を開講
 - 食育講座「IBAちゃんの旬菜cooking」「季節を楽しく薬膳講座」「似顔絵 太巻き寿司」を開講
 - 講演会「こどもがいてもキレイがつづく!ラクするための片づけ」「子ども の気持ちの受けとめ方、親の気持ちの伝え方」を開講
 - •「手作りマルシェ」の開催

企画は全て多世代交流拠点「おおなみこなみ」で実施 しました。原則託児付きの講座とし参加のハードルを下 げるとともに、講座等の開催後に、交流の時間を設定、 主体的なネットワークづくりを促しました。





他団体と協同することで発見したこと

- ●生活クラブ虹の街の託児制度を活用することで、託児付きの講座を継続的に開催することができ、子育て中のママ、特に0歳児~3歳児の子どもを持つママたちの参加を多く得ることができました。学びたい、自分の能力を活かして収入を得たいと思うママたちが大勢いることを改めて認識できました。
- ■ママたちのスキルを活かし、負担感のない形で企画を実現し、起業にむけた支援ができる場を増やすことが必要と感じました。

成果と教訓

- **成果** 子育て中のママを主な対象に、「子育ても仕事も自分らしく」をテーマに9講座と人形劇サークル「ドロップス」等の公演を実施。延べ269名の参加を得ました。講座の内容に沿って、専門性の高い外部講師からの学びと身近な場所で活躍する講師を選定しました。起業を志すママたちが次のステップに向けてのブラッシュアップと少し前を行く先輩ママからの学びにより、今後の方向性をイメージすることができたと思います。人形劇サークル「ドロップス」等の公演により、親子で生の舞台を楽しみ、ママ同志の交流も促すことができました。
- **教訓** ◎講座の中で、参加者間交流ができるよう工夫をしましたが、講座終了後も継続できるような参加者ネット ワークを作ることができませんでした。参加者向けのメールマガジンの配信や企画段階からの参加を促す 等の働きかけが必要だったと思います。

将来イメージ

就園前の乳幼児を持つ、母親は孤立しがちです。今後も、講座の開催やコミュニティカフェの運営を通して、子育て中のママ同志やシニア世代との交流の場面を持てるようにすること、あわせて、ママたちがそれぞれのスキルを活かした起業等ができるような支援を継続したいと思います。

広島中央保健生活協同組合



活動名

子育て広場「コープのびのびクラブ」に関する備品購入及び施設拡充、 ならびに子育て支援に関する企画の実施

協同した団体

●広島市西区母親連絡会 ●新婦人広島市西支部 ●ふくしま文庫

活動内容概要

地域の子育て中の家族が集まり、子育てや健康についての情報交換をしたり、利用者同士がつながりを持ったりできる場として、毎週水曜日10:00~12:00に子育て広場「コープのびのびクラブ」を開催しています。

また、年2回程度子育て応援企画として地域の子育て中の方々を対象に「学び」や「遊び」の企画を開催しています。

今年度は、「生協こどもまつり」を初めて開催しました。当日は天候にも恵まれ、約800人の親子が訪れ、子どもの元気の

よい声が会場に響き渡っていました。







他団体と協同することで発見したこと

「生協だけで…」という考えではクリアできないことも、いろんな方の知恵や協力があるとクリアできることです。今年度初めて「生協こどもまつり」を開催し、このイベントが成功した要因は、他生協の実施例を学び、協力団体の方や子育て広場利用者の方々からアイデアや要員、宣伝活動等、様々な協力を得られたことです。そしてその背景には、生協の子育て応援活動に対する共感、理解があります。みんなが思いを共有し、協同することを発見しました。

成果と教訓

- 成果 ©2013年4月より子育で広場「コープのびのびクラブ」がスタートし、初年度、2年目は順調に利用者が伸びていきましたが、3年目に入り、利用者数の変動は少なく落ち着いています。
 - ◎子育て広場以外の取り組みでは、当生協にとって初めてとなる「生協こどもまつり」を10月に開催しました。 これまで子育て広場でご協力いただいている各団体にも全面的にご協力いただき、成功をおさめることが できました。

2015年11月には、生協小児科ひろしまの移転ならびに病児保育室の開設しました。子育て広場と同じ建屋になり、連携がとりやすくなりました。

■ 教訓 ■ ○当生協も含め、どの団体も共通して担い手不足に悩んでいることを改めて実感しました。

子育て広場のミニ企画や、見守りに協力いただいていた方々が事情により継続困難になったりしましたが、すぐに別の方が見つかるという状況ではありません。

手立てとしては、過去に子育て広場を利用し、今は子どもの成長に伴い利用しなくなった方に活躍してもらうことです。今後の課題になってきますが、広場を利用しなくなった方とも継続して生協と関わりを持ってもらえる仕掛けを考えていく必要があると思っています。

将来イメージ

子育て応援の幅が広がった一方、それらの企画や運営に協力してくれる担い手不足対策が今後の課題になりました。 利用者から協力者へのハードルはなかなか難しいですが、取り組んでいきたいと思います。子育て広場を利用していた方々が、今度は子育て支援者として活躍していく。そんなサイクルができればよいと思っています。

特定非営利活動法人 パパちから応援隊



活 動 名

- ①新米パパ&ママのための「あかちゃんとあそぼう」本セミナー 全3回
- ②家族っていいね!フェスタ ~笑顔の花を咲かせよう~

協同した団体

●市民生活協同組合ならコープ ●奈良県と生駒市 ●企業 個人など 8団体

活動内容概要

- ①「赤ちゃんとあそぼう」セミナー3日3回の様子をビデオ撮影
- ②ならコープと共催し、家族で楽しめるイベントの開催、地域の企業や団体の紹介を兼ねてブースやイベントを準備







他団体と協同することで発見したこと

- ●子育て支援事業にも力を入れている「ならコープ」について広報できました。
- ●ブース運営を地域に根ざした企業や団体に依頼したことで、イベント当日だけの担い手では無く、参加子育て世帯 との日常的なつながりをつくるという目的を達成できました。

成果と教訓

- **成果** ◎パパセミナー:受講者 延べ200人「赤ちゃんと遊ぼう」で赤ちゃん人形を活用でき、受講者によりわかりやすく遊び方を説明できました。
 - ◎理解しやすく楽しく観ていただけるよう、パパセミナーの内容紹介資料として、実際の様子を撮影しDVDを作成しました。「家族っていいね!フェスタ」でも上映しました。フェスタの参加者数265人 主催者側10人 協働団体40人
 - ◎制作したパパセミナーのDVDは自治体への広報活動のために使用し、パパセミナーの普及に大いに活用します。
 - ◎家族で楽しめるイベント「家族っていいね!フェスタ」の実際を報せる記録DVDも今後の広報宣伝、周知に活用します。
 - ◎当法人の活動紹介リーフレットを作成、配布し理解が深まりました。
- **教訓** ◎ならコープの提供試食商品の選択を先に決めていただいてから、販売用の飲料の種類を決めるべきでした。 こちらがならコープより仕入れた飲料と配布試食品とが同じ物だったので、飲料がかなり売れ残ってしまいました。
 - ◎各共同団体との事前打ち合わせ (ブース内容の詳細など) をもう少し綿密にしておけばよかったと思いました。
 - ◎「親子であそぼう」のプログラムの参加人数に対し、会場が狭すぎました。参加者数が読めない分、課題として残ります。

将来イメージ

作成したリーフレットと作成したパパセミナーDVDは自治体担当課や各種団体に観ていただき当法人の事業内容の周知に役立てます。

作成したフェスタの記録DVDを活用し、協働してくれる団体の更なる拡大を図ります。

特定非営利活動法人 キッズドア



活動名 コープみらいプラザを活用した低所得の子どもたち向けの通年型無料学習会の実施

協同した団体

◉生活協同組合コープみらい ◉中野よもぎ塾

活動内容概要

●期間:2015年8月10日~2016年3月12日

●場所:コープみらいプラザ新中野 会議室等

●対象: 低所得層及びひとり親家庭の小学4年生~中学3年生 延べ146名

●内容:学習支援と体験イベントの開催(月2回程度、土曜日14:00~16:00)

●方法:中野区在住、コープみらいブロック員を中心としたボランティアによる指導











他団体と協同することで発見したこと

活動に参加した子どもたちの中から「明日ここに来たら、いる?」という声があがりました。活動を継続する中で子どもたち との信頼関係が築けた証です。通常の学習会であれば公共施設等を借りて実施するため「いない」と答えなければなりませ んが、本事業ではコープみらいの会議室をお借りしたため、「○○さんならいるよ」という声掛けをすることができました。

ひとり親家庭の子どもは親が夜遅くまで働いていることが多いが、本事業のように地域に根差した方たちと施設が揃って いれば、孤立しがちな子どもたちを地域の大人と結びつけることができ、何か困ったことがあった際に、頼れる「居場所」と しての役割を持てるように感じました。

また、経済的な事情で、塾 (家庭教師) に通っていない中学1~3年生を対象にした無料塾は、中野よもぎ塾様と共同して 受験生の作文、面接指導をすることで、普段学習会で会っているボランティアスタッフ、生徒とは違う人と実施できるため、 本番に近い緊張感を持って行うことができました。

成果と教訓

■ 成果 ■ くみらい塾実施成果概要> • 登録児童、生徒数: 18名

 (1.4 ± 4.4) , 1.5 ± 2.4 , 1.5 ± 1.5 , 1

- ◎活動参加児童生徒数:延べ146名 ◎参加児童、生徒出席率:約80%
- ◎受験生志望校合格者数:2名(100%) ◎活動参加ボランティア数:延べ162名 ◎活動回数:20回
- **教訓** ◎コープみらい様のブロック員の方がご自身のお子様が通われている学校にチラシ配布の依頼をしてくださっ たおかげで、事業が周知され、参加生徒が増えました。
 - ◎学習会に関わってくださる方が常時いる固定した会場があることで、子どもたちにとっていざというときの頼 れる「居場所」になれました。
 - ◎同じ目的を持った団体と協力して活動をすることで、質の高いサポートを行うことができました。

将来イメージ

本事業をモデル事業として、各地のコープみらい様の店舗内の会議室をお借りし、低所得層の家庭の子どもたちを対象と した学習会を開催したいです。学習したいのにできない状況にいる子どもたちをサポート出来、子どもたちがなにか困った際 の、拠り所となることができます。また地域に根差した方々がサポートをしてくださることで、地域全体で子どもたちを見守 る体制作りに貢献することができると考えます。

一般社団法人 ワーカーズ・コレクティブぷろぼの工房



活 動 名 親子ひろばとお茶っこクラブ及びエンパワメント講座の開催

協同した団体

- ●多摩南生活クラブ生活協同組合 まち府中 ●企業組合ワーカーズ・コレクティブ椀もあ
- ●特定非営利活動法人 ACT府中たすけあいワーカーズぽぽ
- ●特定非営利活動法人 エコメッセ府中 ●特定非営利活動法人 ArrowArrow

活動内容概要

- 1. 親子ひろば開催:43回(毎週月曜日10時~12時半)
- 2. お茶っこクラブ開催:12回(毎月第3金曜日 10時~15時)
- 3. ママインターン講座開催:基礎講座3回(10月9日、19日、23日 9時半~12時)

職場体験2回(10月27日、11月2日 10時~15時)

振り返りの会1回(12月8日 10時~13時)

講師:特定非営利活動法人 ArrowArrow

堀江由香里 海野千尋

4. 食品添加物の学習会開催: 1回(2月15日 10時~12時)

講師:食の安全を考える会 野本健司







他団体と協同することで発見したこと

特定非営利活動法人 ArrowArrowは、代表をはじめとするメンバーが子育て世代であり、特に講師2名は乳幼児を抱えているため、ママインターン講座の参加者と同じ立場として、互いに共感し合う内容となりました。

成果と教訓

■ 成果 ■ 1. 親子ひろば

開催数:43回 参加した親子数:134組281人 スタッフ:10名が2人ずつシフトを組んで対応。 0~3才の乳幼児を連れて母親が毎回数組参加しました。定期開催とすることで、利用者が新たな人を誘ったりして、利用者が増えていきました。

2. お茶っこクラブ

開催数:12回 参加人数:97人 スタッフ:5人が交代で対応 毎月1回開催し、近隣の高齢者が集まり、手作り品を作成してバザーで販売する準備をしたり、昼食づくり などをしてリフレッシュする場となりました。

3. ママインターン講座

参加人数:4人 職場体験受け入れ団体3団体

3日間の連続講座と2日間の職場体験に必ず参加できる条件にしたこともあり、参加者は4名と少数だったが、内容は、子育て中の母親にとっても、受け入れたNPO団体にとっても充実していました。

- **教訓** ①ママインターンは魅力的な講座ですが、市報に3~4行で載せただけでは応募はありませんでした。子育て中の母親に広報する場合、子育て支援に関わる人たちの口コミ、子育て中の母親に、地域の子育て拠点にチラシを置くことが有効であると思いました。
 - ②無料あるいは低価格での託児サービスは喜ばれますが、生協の組合員どうしの「たすけあい」で行う場合とは異なり、配慮すべきことが多いと感じました。

将来イメージ

- ①親子ひろばとお茶っこクラブは、これからも継続すると共に、お借りしている空き家をもっと日常的に有効活用するために、 「学童保育」の開始を検討しています。
- ②特定非営利活動法人 ArrowArrowのママインターンの手法は、認知度をあげることや自分たちの事業のあり方を見直す機会にもなるため利用していきたいです。

特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン 関西 (FJK)



活 動 名 家族みんなが大喜び! 頼りになるパパ育てプログラム!

協同した団体

- ●大阪いずみ市民生活協同組合 ●和泉市総務部人権・男女参画室
- ●堺市子ども青少年育成部子ども企画課 ●社会福祉法人 どんぐり会
- ◎羽曳野市人権推進課 ◎羽曳野市社会福祉協議会

活動内容概要

父子料理 「パパとつくろう ミートローフでクリスマスリース」

2015年12月19日 ①10:00~12:30 ②14:00~16:30

和泉シティプラザ 調理室 参加人数:54人 共催:和泉市

パパクエスト

(1回目) 日時:2016年1月10日 11:00~15:00 会場:momoプラザ(羽曳が丘コミュニティセンター)

参加人数:170人

後援:羽曳野市、羽曳野市社会福祉協議会

(2回目) 日時: 2016年1月11日 10:00~15:00

みをつくり共催を目指したいと思います。

会場:くろやま保育園 参加人数:109人 後援:堺市



他団体と協同することで発見したこと

地域の行政や団体とのつながりを深めていくことも目的の一つとして加えた中で、想像以上に今後につながるご縁に恵まれ、さらに深め、広げていけそうです。大阪いずみ市生協の広報と行政側の広報ではチャンネルが違い、弊団体を含め三者での広報活動は本当に多様な方々への働きかけにつながりました。結果、それぞれが今まで届かなかった方々へとつながりをつけていくことが出来ました。

成果と教訓

■ 成果 ■ 3つのプログラムを通して、総勢333人の方々にご参加いただきました。プログラムを開催する中で、パパが家庭や子育てに関わることが義務ではなく期間限定の特権であり、とても楽しく素晴らしいことだということがパパたちにより伝わり、結果、今回の助成の趣旨である女性と子どもが生き生きする社会の実現にもつながっていくプログラムになったと思います。

また、このささえあい助成を通して行うプログラムが、行政、大阪いずみ市民生協、FJK、それぞれお互いが補完し合え、地域をより元気に盛り上げていける枠組みと成り得ることもわかりました。

■ **教訓** ■ 集客に関して、民間施設では参加しにくく、公共施設の方が参加しやすいのだと感じました。 パパクエストでは、チラシを開催場所ずつ別々で刷って用意したのですが、一枚に集約した方が効率良く、参加者自らも、どちらに行こうか選択が出来てよかったとわかりました。行政と協働で行う場合には、後援より共催として開催した方が、より多様な方々へ様々な角度から働きかけが出来るので、来期以降はそのための枠組

将来イメージ

行政との関係性の中で組織対組織という視点から掘り下げ、人と人との関係性をもっと築いていきたいです。行政の担当者とFJKのその地域のメンバーのつながりを深め、大阪いずみ市民生協、地域、市民、行政、それぞれとの強い橋渡し役としてのキーマン、活性化の担い手になれるよう努めてまいります。結果、パパたちの家庭回帰、地域参画がより一層進み、女性と子どもが生き生きする社会の実現につなげていきます。

特定非営利活動法人 とうほく食育実践協会



活 動 名 畑から食卓へ大豆を運ぶ会 〜輝く女性と次世代を担う子供たちのストーリー〜

協同した団体

●生活協同組合あいコープみやぎ
●有限会社大郷グリーンファーマーズ

活動内容概要

- ●畑仕事…大豆の種まき、草取り、収穫まで。
- ●料理講習会…大豆を利用した伝統料理講習会の他、親子企画や 季節の食材を使用する講習会を開催し、食育の啓蒙活動の場を 広げます。
- ●地域の生産者との交流会を行い、親交を図ります。



他団体と協同することで発見したこと

連携することの大切さ、お互いがより良きパートナーになることが必要で人材育成やスキルアップの重要性を発見しました。

成果と教訓

■成果 ■ ◎参加人数

申込み人数:287名 当日参加人数:190名 子供の人数:35名 スタッフ人数:49名

- ◎企画をやり続けることで、当協会の認知度が高まりました。
- ◎協会の事業活動を広げることが出来ました。
- ◎協会内の会員が自ら企画を立て活動する機会が増えました。
- **教訓** ◎募集について、企画の質を高め、募集チラシに反映させ、より多くの参加者を募る方法、手段。参加者の連絡方法など。
 - ◎企画のスタッフ会議打ち合わせの重要性。
 - ◎親子企画の段取りの重要性。

将来イメージ

和食がユネスコ無形文化遺産に認定されているのに、日本人の食に対する重要性は低迷を続けています。加工品が増え、お手軽さだけが優先され、昔からあった母の味がなくなりつつありますが、食育活動を続けることにより、食に関心を持つ人が増え、食の現状を理解し、食育を推進する人材育成につながる事業として、食の世界で活躍できる人材が増え、食の大切さや、命を支える食についてもっと興味を持つ人が増えること、また食育のフィールドが広がれば、この事業にかかわる人材が増えるのではないかと考えます。

CO·OP共済



地域ささえあい助成



– 生協と他団体が協同する活動を応援します –



2015年度 募集のお知らせ

CO・OP共済は、「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの制度です。コープ共済連はCO・OP共済を通じて豊かな社会づくりをめざしています。その活動の一環として、生協と地域のNPOやその他の団体が協同して地域のくらしを向上させる活動を支援します。全国の生協、NPO、その他の団体の皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。

応募期間

2015年2月10日 ~3月15日

応募条件



活動テーマ

以下①~③の対象となる活動の テーマいずれかに該当すること

4

活動団体

生活協同組合とNPO・ボランティア団体等が協同した取り組みであること

🥵 対象となる活動のテーマ

①「くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する」



地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネート、障がい者の就労支援、震災による避難者へのカウンセリングの取り組みなど

②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」



病気やケガで治療中の方やそのご家族への治療に専 念できる環境の提供や、治療中における精神面での サポートを通して生活の質の向上を目指す取り組み、 病気の予防や早期発見を目的とする啓蒙活動など

③「女性と子どもが生き生きする」



子育てひろばの開設・運営、出産後の再就職や社会 復帰を支援する取り組み、DV被害者からの相談を 受け付ける活動など

※東日本大震災の支援に関わる以下テーマの活動については、選考で優先して取り扱う場合があります。

☆ 対象となる団体

日本国内を主たる活動の場とする、下記全てを満たす団体を対象とします。

生活協同組合または、その他のNPO法人等

- ●今後設立予定の団体でも構いません。
- ●次の①、②いずれかを必須とします。
- ①生活協同組合以外の団体が応募する場合には、活動内容が生活協同組合と協同して行うものであること
- ②生活協同組合が応募する場合には、生活協同組合以外の団体と協同して行うものであること
- ●協同した取り組みとは、受注委託の関係ではなく対等平等で企画を一緒に作り、ともに活動する関係をいいます。

〈対象とならない活動〉

- ※①~③のいずれのテーマにも合致しない活動(環境問題等)
- ※生活協同組合同士の活動(100%子会社も含む)
- ※生活協同組合単独もしくはNPO単独の活動

☆対象となる活動期間

2015年度は、原則2015年4月1日~2016年3月31日の間に実施する活動が対象です。なお、審査委員が認めた活動に限り、複数年の活動に対して助成を行うことがあります。





🥵 助成内容

助成額は、1事業あたり最大100万円を基本としますが、審査委員が認めた活動に限り、それ以上の助成額になることがあります。

助成総額は2,500万円を予定しています。

●助成の対象となる費用●

- ●活動に直接関わる経費(資材費、消耗品購入費、旅費交通費、借上費、印刷製本費など)
- ●謝礼金(講師謝礼、指導料など)

●助成の対象にならないもの●

- ●飲食費、接待費
- ●助成を受ける事業以外の運営に係る費用
- ●営利を目的とする事業
- ●その他、審査委員会が不適切と判断したもの

協選考

同一の団体に複数年に渡り継続助成を行う場合、3年を上限とします。また、申請より一部減額での助成となる場合もあります。

選考にあたり、ヒアリング調査をおこなう場合があります。

🤥 応募スケジュール



■応募期間:2月10日~3月15日

■審査委員会:4月■結果通知:5月下旬

(第一報はメールでさしあげます)

■助成金の振込:7月下旬

%活動報告

助成を受ける団体には、活動報告書をご提出いただきます。その他に、活動状況のヒアリングや取材受け入れをお願いする こともありますので、ご協力をお願いいたします。

活動報告は、コープ共済連のホームページや冊子等に掲載し、ご紹介させていただきます。

😘 応募方法、提出書類



①応募用紙の入手方法

コープ共済連のホームページよりダウンロードいただくか、下記のお問い合わせ先まで電子メールかFAXにてご請求ください。



http://coopkyosai.coop/ about/csr/socialwelfare/2015.html

※ご請求の際には、団体名、郵便番号、住所、 送り主の方の氏名、電話番号を明記してください。

②応募方法

応募にあたっては、以下の書類を事務局宛にご送付ください。(Email、郵送のみ可)

応募団体へは事務局から書類受領通知をメールにて行います。3月末までに受領通知が届かない場合、事務局までお問い合わせください。

※FAX、持参による提出は受け付けておりません。

- ●応募用紙
- ●定款など

(定款は応募団体がコープ共済連の会員生協である場合、ご提出は不要です。ご不明な場合はご相談ください)

お問い合わせ先

日本コープ共済生活協同組合連合会

渉外・広報部 地域ささえあい助成事務局宛

TEL 047-351-3356 (平日10:00~17:00)

FAX 047-351-5298

contribution@coopkyosai.coop

応募書類提出先

〒279-8588 千葉県浦安市入船1-5-2 コープ共済連 渉外・広報部 地域ささえあい助成事務局宛

過去の助成団体活動内容はホームページでご案内しています。

コープ ささえあい 報告集

検索



http://coopkyosai.coop/ about/csr/socialwelfare/report.html

CO・OP共済 地域ささえあい助成 2015年度 活動報告集



発行日:2016年9月

発行元:日本コープ共済生活協同組合連合会

(渉外・広報部)

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13

電話 03-6836-1320





CO·OP共済 地域ささえあい助成 2015年度 活動報告集